

**平成 21 年度
木材調達のグリーン化普及
啓発キャンペーン実施業務報告書**

2010 年 3 月

財団法人 地球・人間環境フォーラム

はじめに

地球規模の環境問題である森林減少の進行を食い止めるには、持続可能な森林経営を促進することが重要であるが、持続可能な森林経営を阻害する原因の一つとして、違法伐採が指摘されている。違法伐採は木材生産国の森林減少を引き起こし、二酸化炭素の放出、生物多様性・森林生態系を損なうのみならず、木材の世界における市場価格の引き下げを引き起こす等により、第3国における持続可能な森林経営を脅かすなど、世界の持続可能な森林経営へ深刻な影響を及ぼしている。

我が国は違法伐採対策として、平成18年4月1日からグリーン購入法により政府調達の対象を合法性・持続可能性が証明された木材とする措置を開始したところである。今後は、グリーン購入法に基づく調達方針について、法律の対象である国及び独立行政法人等にとどまらず、広く民間調達にも普及させていくことが必要であり、その普及方策について検討するため、「平成19年度木材・木材製品の調達に係るグリーン購入法の取組・普及調査」において住宅・建築事業者等へアンケート調査等を行った。その結果、合法性・持続可能性が証明された木材の需要拡大のためには、一般国民及び木材製品等の最終消費者に対し、森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化に関する情報提供、普及啓発を実施する必要があることが明らかとなったため、平成19年度末より、同キャンペーンを開始したところである。

本業務は、平成20年度実施の同キャンペーンを引き継ぎ、一般国民及び木材製品等の最終消費者に対し、さらなる普及啓発活動を実施したものである。とくに今年度は高校・大学などの教育機関向けにDVD教材「人と木～世界の森林を守るために、今私たちにできること～」を作成した。

最後に、本業務の実施にあたりご協力をいただいた方々に厚く御礼を申し上げる。

2010年3月

財団法人 地球・人間環境フォーラム

理事長 炭谷 茂

目次

はじめに.....	I
目次.....	III
業務実施体制.....	IV
第1章 一般国民に対する普及啓発のため情報提供の実施	1
1. インターネットを活用した情報提供	1
2. 展示会・イベント開催を通じた情報提供	3
3. その他情報媒体を通じた情報提供.....	8
第2章 業界団体等の印刷物への情報掲載.....	10
1. 情報の提供先	10
2. 情報が掲載された広報誌等.....	15
第3章 消費者団体への働きかけ	18
1. 消費者団体への情報提供	18
2. 消費者団体との共同事業の実施	19
第4章 環境教育への組み込み.....	20
1. 映像教材の製作.....	20
2. 検討会の開催	20
3. 大学生とのヒアリング.....	20
4. 環境教育について活動している団体への情報提供.....	21
5. 映像教材についての案内送付先	22
第5章 出前講座の実施	33
1. 配布資料	33
2. 講師リスト	33
3. 出前講座実施リスト	33
4. 出前講座の実施風景	35
第6章 政府広報を通じた情報提供	36
第7章 今後の課題	37
添付資料1 フェアウッド・クイズ	39
添付資料2 映像の概要（ナレーション原稿等）	44
添付資料3 映像付属教材（指導マニュアル）	58
添付資料4 配布資料	68

業務実施体制

本業務は下記実施体制により、実施した。

坂本 有希	財団法人 地球・人間環境フォーラム 企画調査部長／フェアウッド担当	全体調整、映像製作調整、出前講座 講師
根津 亜矢子	財団法人 地球・人間環境フォーラム 企画調査部研究員／フェアウッド担当	映像製作調整、消費者団体調整、情 報提供実施、イベント・展示出展調 整、報告書作成
飯沼 佐代子	財団法人 地球・人間環境フォーラム 企画調査部研究員／フェアウッド担当	映像製作調整、出前講座講師
岡崎 時春	国際環境 NGO FoE Japan 森林プロジェ クト／フェアウッド担当	出前講座講師
中澤 健一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プロジェ クト／フェアウッド担当	出前講座講師
三柴 純一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プロジェ クト／フェアウッド担当	出前講座講師
三上 雄己	フェアウッド・パートナーズ	出前講座講師
木村 輝一郎	フェアウッド・パートナーズ	出前講座講師

第 1 章 一般国民に対する普及啓発のため情報提供の実施

森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化の情報について一般国民等への情報提供を実施するためにインターネット媒体やイベントを通じて情報提供を実施した。

1. インターネットを活用した情報提供

フェアウッド・パートナーズ及び地球・人間環境フォーラムのウェブサイト、メールマガジン等を通じた情報提供を随時実施した。

(1) フェアウッド・パートナーズのウェブサイト

フェアウッド・パートナーズのウェブサイト(http://www.fairwood.jp/news/pr_ev/pr090605_mokuzai Fukyu.html)において、本業務の内容を紹介するページを設け、出前講座の実施についてや、各種イベントなどの紹介を行った。(イメージについては、下記参照)

(2) フェアウッドのメーリングリスト

フェアウッドのメーリングリストやメールマガジンにおいても、イベントの情報提供などを適宜行った。(計約 1,660 件)

(3) フェアウッド主催の過去のセミナー等参加者

フェアウッドが過去に主催した勉強会、セミナー、ワークショップなどへの参加者に、イベントの情報提供などを適宜行った。

<フェアウッド・パートナーズ ウェブサイトのイメージ>

http://www.fairwood.jp/news/pr_ev/pr090605_mokuzai Fukyu.html



活動内容詳細

1. 講座「木材から森を学ぼう」の実施

森や環境について社内や団体、学校で学んでみませんか。例えば、消費者として、世界と日本の森林保全のために何ができるのか、毎日の暮らしで使う紙や木材製品選びから考えをきっかけ作しをお手伝いします。また、木材に関連している企業の方々からは、木材調達を確認するためのノウハウについてのご相談をお受けします。講座メニューは、さまざまです。学習机、紙、住宅、ガーデンファニチャーなどを題材に、下記のようなメニューで講座を構成でき、ご希望にあわせてカスタマイズできます。また映像「木のまた道」の上峰会やトークショーと組み合わせることも可能です。2010年3月までならば、無料(交通費含む)で講師を派遣いたします。是非お気軽にお問い合わせください。

- ・世界の森林と日本の木材消費
- ・森林の持つ役割
- ・温暖化と森林
- ・森林減少・劣化と違法伐採
- ・木材生産地の状況
- ・世界/日本の政府や企業の動き
- ・私たちにできること: 買い手の責任と可能性
- ・フェアウッド調達とは?

2. パンフレット、チラシなどの配布

森林減少問題について、わかりやすくまとめたパンフレットやチラシがあります。イベント等で配布したいというご要望があれば、是非ご連絡ください。

- ・ポスター: 「世界の森林は削々と減少しています」(サイズ: B2 1頁)
ダウンロード(0.6MB)
- ・ちらし: 「世界の森林は削々と減少しています」(サイズ: A4 2頁)
ダウンロード(1.16MB)
- ・広報誌等への掲載原稿
ダウンロード(0.2MB)
- ・パンフレット: 「世界の森林を守るために 一違法に伐採された木材を使用していませんか?」(サイズ: A3 4頁)
ダウンロード(5.25MB)

3. イベントへの出展・展示等

Japan DIY Homecenter Show 2009(終了しました)

【開催日程】2009年 8月27日(木)・28日(金)①(イヤーズ・デー)

8月28日(金)・29日(土)②(一統PR・デー)

【開催時間】午前9:30～午後5:00 ※29日(最終日)は午後4:00まで

【会場】箕張メッセ国際展示場 〒261-0023 千葉県美浜区中津2-1

【展示規模】箕張メッセ 4・5・6番ホール

フェアウッド・パートナーズの小間はM-34です。

4. 雑誌・発行物での記事の掲載

森林問題、木材製品のグリーン購入に関してなどの記事をお願ひいたします。媒体をお持ちの方は、是非ご連絡ください。今までの実績については、環境省のページをご参照ください。

■お問い合わせ

フェアウッド・パートナーズ事務局

・地球・人間環境フォーラム 坂本、横達
TEL 03-3813-9735

・国際環境NGO FoE Japan 三橋
TEL 03-6907-7217

E-mail: info@fairwood.jp

<この活動は、環境省が行う「木材調達におけるグリーン化普及啓発キャンペーン」の一環として、環境省と共同で実施しています。>

2. 展示会・イベント開催を通じた情報提供

環境に関連する展示やイベントにおいて、ブースなどを設置し、一般参加者に対して木材調達のグリーン化及びフェアウッドに関する情報提供を実施した。

(1) JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2009

日時：2009 年 8 月 27 日（木）～29 日（土） 9 時半～17 時

場所：幕張メッセ国際展示場 4・5・6 番ホール（千葉県千葉市）

内容：ブース出展を行い、来場者に対し森林減少や違法伐採問題について普及啓発を実施した。ブースは、廃材を再利用して作成したもの。来場者は、業者以外に家族連れなど子供も多かったため、クイズ形式で森林の状況や森林減少について、学んでもらった。使用したクイズは添付資料 1 を参照。

<展示の様子>



(2) 森の音楽祭

日時： 2009 年 10 月 6 日（土） 10 時～16 時

場所： 清里の森（山梨県）

実施内容： 木からできた製品を展示。「木の来た道」の上映会を実施後、観客 150 名ほどと森林、木材、林業などについてのさまざまな意見交換を実施。



(3) 新宿の環境学習応援団 “ まちの先生見本市 ”

日時：2010 年 2 月 6 日（土） 9:45～15:30

場所：新宿区立早稲田小学校（東京都新宿区早稲田）

内容：身の回りにある木材や、森林面積などについて、クイズで来場者である小学生、親子連れ、主婦、環境活動を行っている人などに実施。



（４）その他各種セミナーなど

上記以外では、地球・人間環境フォーラム主催や共同でフェアウッド・パートナーズを実施している国際環境 NGO FoE Japan が参加した森林関連のセミナー・勉強会・シンポジウムなどで、当キャンペーンのちらしを配布した。

例)

■エコプロダクツ 2009

期間：2009 年 12 月 11 日（木）～13 日（土）

場所：東京ビックサイト



■きこりと地球のなかまたち

期間：2009 年 1 月 13 日（水）～19 日（火）

場所：東京ミッドタウン アトリウム

主催：住友林業



■シンポジウム「みんなで守り育む世界の森 ―企業と NGO/NPO のパートナーシップによる森林保全活動―」

日時：2010 年 2 月 19 日（金）

場所：JICA 地球ひろば講堂

主催：地球・人間環境フォーラム

参加者：約 80 名

3. その他情報媒体を通じた情報提供

■広告掲載

Monthly Progress 4月号 (2010 年 3 月 10 日発行)

エスティックサロンの経営者対象の業界紙(発行部数:20000 部/全国)で開始された「CSR プロジェクト Earth Beauty」にて広告掲載。

2010 APRIL

世界の森林は刻々と減少しています。

そのスピードは、5年間で日本の総面積分に――



私たちにも出来ることがあります。
「違法伐採された木材」製品を買わない、という選択。

世界規模で刻々と森林が失われ続けています。
 その原因のひとつが海外で行われている違法な無秩序な伐採です。
 そしてこれらの木材、日本に輸入され、
 私たちの周りに着入っているかも知れないのです。
 緑の地球を救うために、まず「違法に伐採された木材」があることを知ってください。
 そして木材製品を購入するときには、合法木材を使用しているかを確かめてください。

下記の森林認証マークが付いている
木材・木材製品を購入しましょう。

森林認証とは森林が適切に管理されていることを第三者機関が保証し、当該森林から産出された木材を区別して流通させることにより、消費者が意識的に合法木材を選び購入できるようにする民間主体の制度。





フェアウッド・パートナーズ
<http://www.fairwood.jp>

環境に配慮し、社会的に公正な木材(フェアウッド)の利用を、消費者や企業などに呼びかける活動を行っています。このプロジェクトは財団法人地球・人間関係フォーラムと国際環境 NGO FoE Japan が共同で実施しています。



お問い合わせ先

■フェアウッド・パートナーズ事務局
 (財団法人地球・人間関係フォーラム内)
 TEL: 03-3813-9735
 E-mail: info@fairwood.jp

■環境省地球環境政策推進部資源課
<http://www.env.go.jp>





●特定非営利活動法人ADRA Japan

概要・説明 ADRA Japanは、世界約120カ国の支援とパートナーシップを築き、国際協力を行っています。世界各地において今なお深刻な被害を受けている「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するために、人道復興、教育の提供、食料の供給と自立を促す支援を行っています。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
 TEL: 03-6410-0046
<http://www.adra.or.jp>



●財団法人 日本ユネスコ協会連盟

概要・説明 「教育は人々の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」ではあるが、その平和の意識に基づき、全国際ユネスコ協会と共に活動するNGO、「守ろう地球のたからもの世界遺産活動」「すべての人に教育を世界の子ども達」を行っています。

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1
 都日生命ビル202号ビル12F
 TEL: 03-6424-1121
<http://www.janic.or.jp/>



●財団法人 地球・人間関係フォーラム

概要・説明 地球環境問題に関する科学技術・政策、その成果の普及・啓発、政策提言にあり続け、社会の発展・発展、教育、環境、森林減少など幅広い地球環境問題の解決や持続可能な社会の構築に向けて、行政、企業、NPO・NGO、メディア等との連携・ネットワークづくりを進めながら、社会福祉の発展に努めています。

〒113-0053 東京都文京区湯島3-43-18
 成田ビル3F
 TEL: 03-3813-9735
<http://www.foe.or.jp>



●WWFジャパン
 (財)世界自然保護基金ジャパン

概要・説明 WWFは、約100カ国で活動している地球環境保全団体です。1961年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来を築くことをめざして、地球上の生物多様性を守ることと、人の暮らしが自然環境や野生生物と共生している状態を小さくすることを特に活動の目標としています。ぜひWWFをご支援ください。

〒105-4014 東京都港区芝3-1-144F
 TEL: 03-4769-1241 (10:00~17:30受付)
<http://www.wwf.or.jp>



●特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)

概要・説明 国際協力NGOセンター(JANIC)は、国際協力の発展に貢献するNGOや、賛同する企業、個人の活動をつくる日本を拠点とする国際NGOです。NGOの活動を多くの人に届け、NGOと企業、企業、政府、自治体が協力し合うことを目指しています。国際協力の発展に貢献することを、一緒に考えてみましょう。

〒163-0051 東京都新宿区西早稲田2-4-18 アパビル5F
 TEL: 03-6292-0911
<http://www.janic.or.jp/>

マンスリー・プログレス ―CSRプロジェクト「Earth Beauty」―

いま、社会では企業のCSR活動に大きな関心がもたれています。サロンオーナーの皆様においても経営者として、また消費者として大きな関心事のひとつだと思います。そこで、株式会社クエスアックでは「非営利団体向け広報活動支援プログラム」を提供します。これは上記に掲げられた5つの団体様を2010年4月号より1年間に渡って広報支援させて頂くプロジェクトです。これを機会として読者の皆様にも少しでも関心をお寄せいただければ幸いです。(株式会社クエスアック・CSR推進プロジェクト担当)

■情報提供の実施

雑誌「エココロ」

出版社の社長、副編集長などと意見交換を実施。雑誌も構成の転換期にあるため、2010 年 4 月以降の協力になる模様

第 2 章 業界団体等の印刷物への情報掲載

合法性・持続可能性が証明された木材・木材製品の需要拡大を図るため、木材関連団体、家具関連業界、環境関係団体等に、環境省作成のポスター及びチラシ「世界の森林は刻々と減少しています」等、森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化についての情報を提供し、問題意識を啓蒙し、取り組みを促すと共に広報誌等、印刷物への掲載への依頼を実施した。また、出前講座や映像教材「人と木～世界の森林を守るために、今私たちができること」が提供できる旨を伝えた。

1. 情報の提供先

環境省発行のちらし「世界の森林は刻々と減少しています」を送付して協力を呼びかけると共に、DVD 教材「人と木～世界の森林を守るために、今私たちにできること」の完成および無料配布について情報提供を実施した。

①木材・家具関連業界団体

- 全国天然木化粧合板工業協同組合連合会
- (社) 全国木材組合連合会
- (中) 全国木材検査・研究協会
- (社) 日本家具工業連合会
- (社) 日本建設業団体連合会
- 日本合板工業組合連合会
- (社) 日本木造住宅産業協会
- 日本木材輸入協会
- 社団法人日本家具工業連合会
- 全国家具卸組合連合会
- 全日本家具商組合連合会
- 社団法人国際家具産業振興会
- 社団法人インテリア産業協会
- 社団法人日本オフィス家具協会
- 日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会
- 社団法人日本産業訓練協会
- 全日本ベッド工業会
- 日本合板工業組合連合会
- 日本繊維板工業会
- 日本チェーンストア協会
- 全国建具組合連合会
- 社団法人日本機械工業連合会
- 社団法人全国木工機械工業会
- 日本機械鋸・刃物工業会
- 全日本木工機械商業組合
- 日本木工機械協同組合
- 中部木工機械工業会
- 大阪木工機械協同組合
- 広島木工製材機械協会

- 日本百貨店協会
- ウレタンフォーム工業会
- 社団法人日本合成樹脂技術協会
- 東京椅子張同業者組合連合会
- 板硝子協会
- 全国家具金物組合連合会
- 日本接着剤工業会
- 社団法人日本D I Y協会
- 社団法人日本塗料工業会
- 社団法人プレハブ建築協会
- 社団法人全国木材組合連合会
- 全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会
- 社団法人日本インテリアデザイナー協会
- 日本インテリアファブリックス協会
- 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
- 社団法人日本能率協会
- アメリカ広葉樹輸出協会
- 日本プリント・カラー合板工業組合
- 全国機械用刃物研磨工業協同組合
- 社団法人日本木材加工技術協会
- 財団法人伝統的工芸品産業振興協会

②都道府県地球温暖化防止活動推進センター

No.	地球温暖化防止活動推進センター名	所属団体名
1	全国地球温暖化防止活動推進センター	財団法人日本環境協会
2	北海道地球温暖化防止活動推進センター	財団法人北海道環境財団
3	ストップ温暖化センターあおもり	特定非営利活動法人青森県環境パートナーシップセンター
4	岩手県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
5	ストップ温暖化センターみやぎ	財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
6	秋田県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム
7	山形県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境ネットやまがた
8	福島県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人超学際的研究機構
9	茨城県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人茨城県公害防止協会
10	栃木県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人栃木県環境技術協会
11	群馬県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人地球温暖化防止ぐんま県民会議
12	埼玉県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

平成 21 年度木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務報告書

13	千葉県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人千葉県環境財団
14	東京都地球温暖化防止活動推進センター	財団法人東京都環境整備公社
15	神奈川県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人かながわアジェンダ推進センター
16	新潟県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人新潟県環境保全事業団
17	山梨県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人フィールド'21
18	静岡県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人アースライフネットワーク
19	富山県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人とやま環境財団
20	石川県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議
21	福井県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人エコプランふくい
22	長野県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人長野県環境保全協会
23	岐阜県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人岐阜県公衆衛生検査センター
24	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人環境創造研究センター
25	三重県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人三重総合環境研究センター
26	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人淡海環境保全財団
27	京都府地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人京都地球温暖化防止府民会議
28	大阪府地球温暖化防止活動推進センター	財団法人大阪府みどり公社
29	兵庫県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人ひょうご環境創造協会
30	奈良県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人奈良ストップ温暖化の会
31	和歌山県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人わかやま環境ネットワーク
32	島根県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人三瓶フィールドミュージアム財団
33	岡山県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人岡山県環境保全事業団
34	脱温暖化センターひろしま	財団法人広島県環境保健協会
35	山口県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人山口県予防保健協会
36	香川県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人香川県環境保全公社
37	愛媛県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人愛媛県環境保全協会
38	高知県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境の杜こうち
39	福岡県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人九州環境管理協会
40	佐賀県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人温暖化防止ネット
41	長崎県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境カウンセリング協会長崎
42	熊本県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人くまもと温暖化対策センター
43	大分県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人地域環境ネットワーク

44	宮崎県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人宮崎文化本舗
45	鹿児島県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人鹿児島県環境技術協会
46	気候アクションセンターおきなわ	財団法人沖縄県公衆衛生協会

③サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク(NSC)会員企業

NSC は、事業者、NGO、学識者を会員に、さまざまなサステナビリティ・コミュニケーションに関する研究・情報発信を行う団体。会員には環境や CSR への問題意識が高い企業や団体が所属する。NSC 会員 165 団体・個人に環境省のパンフレットとちらしを送付し、出前講座実施などを働きかけたほか、その後電子メール等でもフォローアップを実施した。

<NSC 会員一覧> (2010 年 3 月時点)

学識者 (22 名) (所属大学名のみ掲載)

愛知大学／英国国立ウェールズ大学大学院／桜美林大学／大阪大学大学院／大阪学院大学／京都大学／近畿大学／神戸大学大学院／国際基督教大学／埼玉大学／淑徳大学／中央大学／中央大学専門職大学院／帝京大学／東京大学／東京工業大学／東北大学大学院／福岡大学／横浜国立大学／立教大学／麗澤大学／麗澤大学

非営利団体 (11 団体)

NPO 法人環境カウンセラー会ひょうご／環境監査研究会／(財)キープ協会／グリーンリポーター・フォーラム／グローバル・ソリューション研究所／(社)埼玉県環境検査研究協会／(財)世界自然保護基金ジャパン／(財)地球環境戦略研究機関 持続性センター／(社)日本能率協会／(財)日本品質保証機構／バルディーズ研究会

企業等 (112 団体)

あいおい損害保険(株)／アサヒビール(株)／味の素(株)／アスクル(株)／KPMG あずさサステナビリティ(株)／(株)アストクリエイティブ／アルプス電気(株)／出光興産(株)／(株) I N A X／(株)インターリスク総研／(株)エコマネジメント研究所／(株)NTTデータ／大阪ガス(株)／(株)大林組東京本社／(株)岡村製作所／オグルヴィ PR／オムロン(株)／花王(株)／(株)学習研究社／カシオ計算機(株)／鹿島建設(株)／(株)環境管理センター／キッコーマン(株)／共同印刷(株)／キリンホールディングス(株)／(株)キングジム／(株)クレアン／玄(株)／廣告社(株)／コニカミノルタホールディングス(株)／サントリー(株)／(株)ジェイベック／(株)資生堂／(株)島津製作所／清水建設(株)／シャープ(株)／信越ポリマー(株)／(株)新日本サステナビリティ研究所／スーパーバッグ(株)／生活協同組合連合会ユーコープ事業連合／生活協同組合コープこうべ／生活協同組合コープながの／生活協同組合コープネット事業連合／(株)西友／積水化学工業(株)／積水ハウス(株)／(株)セブン&アイ・ホールディングス／ソニーファシリティマネジメント(株)／(株)損害保険ジャパン／大成建設(株)／(株)大和証券グループ本社／(株)大和総研／宝酒造(株)／田辺三菱製薬(株)／中央化学(株)／(株)ツムラ／帝人(株)／(株)DDD パートナーズ／(株)テクノアソシエ／東京急行電鉄(株)／TOTO(株)／東洋インキ製造(株)／東洋製罐(株)／監査法人トーマツ／(株)トクヤマ／トステム(株)／凸版印刷(株)／トヨタ自動車(株)／(株)虎屋／(株)ナナオ／日産自動車(株)／(株)ニッセイ基礎研究所／日本水産(株)／日本生活協同組合連合会／日本精工(株)／日本電気(株)／日本ハム(株)／日本郵船(株)／日本ユニシス(株)／ネットワンシステムズ

(株)／(株)博報堂／パナソニック(株)／東日本旅客鉄道(株)／(株)日立製作所／(株)日立ハイテクノロジーズ／広島ガス(株)／富士重工業(株)／富士ゼロックス(株)／富士通(株)／富士通エフ・アイ・ピー(株)／富士レビオ(株)／プリンス電機(株)／(株)フルッタフルッタ／(株)フルハシ環境総合研究所／本田技研工業(株)／前田建設工業(株)／みずほ情報総研(株)／(株)三越／三菱商事(株)／三菱電機(株)／三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)／ミニストップ(株)／みやぎ生活協同組合／(株)山武／ユニ・チャーム(株)／横河電機(株)／ライオン(株)／(株)リクルート／(株)リコー／リスパック(株)／(株)菱食／(株)ロビンソン百貨店

④環境を考える経済人の会 21 (B-LIFE21) 会員企業

B-LIFE21 は、環境問題に積極的に取り組む日本の代表的企業の経営者で結成している環境 NGO。

<B-LIFE21 会員一覧> (2010 年 3 月時点)

セコム／アサヒビール／東京ガス／大林組／コスモ石油／佐川急便／富士ゼロックス／損害保険ジャパン／オムロン／東日本旅客鉄道／東京電力

⑤日本環境ジャーナリストの会会員

日本環境ジャーナリストの会は、環境問題に関心を持つジャーナリストに研究と情報交換の場を提供すること、また国内のみならず地球規模の環境問題についてもより深く学び、専門分野を越えたジャーナリスト同士の交流を深めることを目指す団体。日本環境ジャーナリストの会の会員は、約 80 名で、新聞・テレビ・雑誌の記者のほかに、ニュースキャスター、フリーのアナウンサーやライター、出版社編集者、NGO・NPO 関係者、広告代理店の社員なども在籍している。

<会員所属先一例> (順不同)

朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、日本農業新聞、エネルギージャーナル社、日本インターネット新聞社、埼玉新聞、共同通信社、日刊工業新聞、日本農業新聞、(社)日本環境教育フォーラム、集英社インターナショナル、博報堂、中央法規出版(株)、フリーランスジャーナリスト

環境省発行のちらしを、林野庁事業の調査において「合法木材製品の調達に関するアンケート」をグリーン購入法の対象となる国等の機関、独立行政法人、地方自治体(送付合計数：約 1,800 組織)実施の際に同封し、世界の森林減少についての情報提供を実施した。

2. 情報が掲載された広報誌等

未来図書.jp 課外活動プログラム紹介（ダイヤモンド社）

平成 20 年 10 月末～

<http://mirai-tosyositu.jp/program/2008/10/85/1.html>

未 来 図 書 室.jp

ホーム > 課外活動プログラム紹介 > 木材から森を学ぼう（グリーン木材調達キャンペーン&フェアウッド出前講座）

木材から森を学ぼう

（グリーン木材調達キャンペーン&フェアウッド出前講座）

紙や家具など毎日の暮らしに欠かせない木材製品はどこからやってくるのでしょうか？－…

財団法人 地球・人間環境フォーラム

紙や家具など毎日の暮らしに欠かせない木材製品はどこからやってくるのでしょうか？一刻々と減少する世界の森林の現状や違法伐採と木材製品とどうつながっているのかを知り、私たちが何ができるのか解決策を考える講座です。木材製品の由来に目を向け、選んで買ってみることが、世界の森林の破壊を食い止めるための第一歩です。

<講座構成メニュー>

学習机、紙、住宅、ガーデンファニチャーなどを題材に、下記のようなメニューで講座は構成されます。ご希望にあわせてカスタマイズできます。

- (1) 世界の森林と日本の木材消費
- (2) 森林の持つ役割
- (3) 森林減少・劣化と違法伐採
- (4) 木材生産地の状況
- (5) 世界／日本の政府や企業の動き
- (6) 私たちにできること：買い手の責任と可能性
- (7) フェアウッド調達とは？

家具新聞

2009 年 9 月 5 日

家具はもちろん、住宅、建設、紙など木材に関わる産業において、フェアウッド（伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材・木製品）の調達は重要な課題である。そのためのコンサルティングや情報収集、調査研究を行っている「フェアウッド・パートナーズ」は、国際環境 NGO、FOE Japan と（財）地球・人間環境フォーラムが共同で事務局を担っている。8月5日に東京・表参道にある「ワイズ・ワイズ」で行われた上映会では、40人ほどの会場が満員となり、上映後にはトークセッションが実施された。



上映会後のトークセッション。左からフェア・ウッド・パートナーズの中澤さん、佐藤社長、三上延己さん（映像ディレクター）、木村 輝一郎さん（映像ディレクター）

映像レポート「木の来た道」 各地で上映会を開催 フェアウッド・パートナーズ

映像レポート「木の来た道」は、国内の山林が荒れ、輸入材が増えたのかを木に携わる人の声を中心に探る。そして、日本に輸入されてくる木材がどこから、どのように運ばれているのか。ロシア、中国、東南アジアなど世界の様子を見ながら、高い企業理念が原動力となっていると実感した。最後には参加者も交えたトークセッションが行われ、映像についての感想や、木材や環境についての意見が交換された。

上映会とトークセッションは、フェアウッド・パートナーズが主催する。会場は、東京・表参道の「ワイズ・ワイズ」の佐藤社長より、ワイズ・ワイズが環境への取り組みとして今年4月に立ち上げた「エコフレンドリープロジェクト」について説明があった。なぜ取組むのか、具体的な取り組み内容について、社内や協力会社、出向者などでの上映会を行う場合、図書館価格となる。製作：フェアウッド・パートナーズ／制作：年・2009年／時

上映会とトークセッションは、フェアウッド・パートナーズが主催する。会場は、東京・表参道の「ワイズ・ワイズ」の佐藤社長より、ワイズ・ワイズが環境への取り組みとして今年4月に立ち上げた「エコフレンドリープロジェクト」について説明があった。なぜ取組むのか、具体的な取り組み内容について、社内や協力会社、出向者などでの上映会を行う場合、図書館価格となる。製作：フェアウッド・パートナーズ／制作：年・2009年／時

上映会とトークセッションは、フェアウッド・パートナーズが主催する。会場は、東京・表参道の「ワイズ・ワイズ」の佐藤社長より、ワイズ・ワイズが環境への取り組みとして今年4月に立ち上げた「エコフレンドリープロジェクト」について説明があった。なぜ取組むのか、具体的な取り組み内容について、社内や協力会社、出向者などでの上映会を行う場合、図書館価格となる。製作：フェアウッド・パートナーズ／制作：年・2009年／時

「グローバルネット」232 号（平成 22 年 3 月号）

財団だより
GEF NEWS

環境教育映像

「人と木～世界の森林を守るために、今私たちにできること」(仮題)

地球・人間環境フォーラムは、環境省事業「木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン」の一環として、世界の森林減少問題を考えてもらうための、映像教材（DVD）を現在製作しています。

DVD には、森林減少問題に関する解説とデータ、さらに授業を実施する際のヒントを収録した副教材も付いて

います。高校や大学などで地球環境問題をとり上げる際に活用いただけます。

本教材の予約を受け付けています。ご希望の方は、氏名、所属、郵便番号、住所、TEL/FAX、E メールを記載の上、E メール（contact@gef.or.jp）、または FAX（03-3813-9737）にて「森林映像教材希望」と件名に記載してお申込みください。（発送 4 月予定）

【映像構成】

- 第 1 章 森林の役割／森林と人間
- 第 2 章 世界の森林減少と日本の木材利用
- 第 3 章 私たちに何ができるか～持続可能な森林経営に向けてのさまざまな取り組み

【対象】 高校生以

上想定

【長さ】 約20分

【費用】 送料のみ負担



環境省「木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン」ちらし

第3章 消費者団体への働きかけ

木材調達のグリーン化については、森林減少問題、違法伐採問題の理解が普及された上で、一般国民の消費活動につながっていくことが必要であることから、全国消費者団体連絡会及び同連絡会加盟の消費者団体の活動方針（行動計画など）に木材調達のグリーン化を位置づけてもらうために、上記団体に対し、森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化について情報提供・働きかけを行った。

1. 消費者団体への情報提供

全国消費者団体連絡会及び同連絡会加盟の消費者団体に対し、環境省発行のちらし「世界の森林は刻々と減少しています」等による情報提供を行うとともに、出前講座の実施、広報誌等への記事掲載を呼びかけた。また、DVD 教材「人と木～世界の森林を守るために、今私たちにできること」の完成および無料配布について情報提供を実施した。

情報提供を実施した消費者団体一覧（計 37 団体）

- 全国消費者協会連合会
- （財）日本消費者協会
- 神奈川県県生活共同組合連合会
- 日本青年団協議会
- 全国大学生生活共同組合連合会
- 新日本婦人の会
- 日本婦人団体連合会
- 全国地域婦人団体連絡協議会
- 日本生活共同組合連合会
- 東京都地域婦人団体連名（東京地婦連）
- NPO 法人グリーンコンシューマー東京ネット
- 主婦連合会
- 神奈川県県民部消費生活課普及推進班
- 東京都消費生活総合センター活動推進課
- 横浜市消費生活総合センター
- 愛知県消費者団体連絡会
- 石川県消費者団体連絡会
- 岩手県消費者団体連絡協議会
- 愛媛県消費者団体連絡協議会
- 岡山県消費者団体連絡協議会
- 北九州市消費者団体連絡会
- (NPO)コンシューマーズ京都(京都消団連)
- 群馬県消費者団体連絡会
- 埼玉県消費者団体連絡会
- 静岡県消費者団体連盟
- 消費者団体千葉県連絡会
- 全大阪消費者団体連絡会
- 富山県消費者団体連絡会
- 東京消費者団体連絡センター

- 鳥取県消費者大会実行委員会
- 長野県消費者団体連絡協議会
- 前橋市消費者団体連絡会
- 山口県消費者団体連絡協議会
- 山梨県消費者団体連絡協議会
- 横浜市消費生活総合センター
- J A 全国女性組織協議会
- (社) 全国消費生活相談員協会
- (NPO) 日本消費者連盟

2. 消費者団体との共同事業の実施

全国大学生生活協同組合連合会が早稲田大学と共催した「2009 年度全国環境セミナー」においてパネル展示、資料配付を実施した。

日時：平成 21 年 10 月 24 日（土）、25 日（日）

場所：京都大学



第 4 章 環境教育への組み込み

教育機関における学生向けに、森林の役割と長きにわたってそれを享受してきた人間との深い関わりを示すと共に、現在起きている世界の森林減少・劣化や、その一因となっている違法伐採問題について、またそれが私たちの日々の消費と繋がっていることを伝え、合法性・持続可能性が確保された木材需要の拡大につながるような消費行動を促すことを目的として、映像教材を作成した。

1. 映像教材の製作

＜製作物＞

- 映像（15 分～20 分）
- 副読本（映像に含まれているデータや議論のポイントをまとめたもの。）

映像の概容と副読本のコピーはそれぞれ添付資料 2、3 を参照。

2. 検討会の開催

検討会を 2009 年 10 月と 2010 年 2 月の 2 回実施した。

検討委員一覧（五十音順、敬称略）

氏名	所属
川嶋 直	キープ協会常務理事、立教大学 ESD 研究センターCSR チーム主幹
小池菜採	アジア太平洋資料センタービデオ担当
五嶋正治	東海大学文学部広報メディア学科准教授
高橋康夫	新宿区立市谷小学校校長、元全国小中学校環境教育研究会会長
仲野万里子	EARTH VISION 地球環境映像祭事務局次長
西 あい	開発教育協会事務局次長

3. 大学生とのヒアリング

教材を作成する前に、今回の教材の対象としている大学生に対して、実際に森林に関する別の映像を見せ、森林減少問題について議論をし、教材作成する際の参考にした。

■駒澤大学

2009 年 10 月に駒澤大学の学生有志 15 名にフェアウッド・パートナーズ製作「木の来た道」の抜粋を上映。その後森林減少問題についての意見交換を実施。

■上智大学

2009 年 10 月に上智大学のゼミの授業において、フェアウッド・パートナーズ製作「木の来た道」の抜粋を上映。その後森林減少問題についての意見交換を実施。

ヒアリングの際のコメント抜粋

上記 2 大学でのヒアリングの結果、大学生からのコメントとしては、

- 環境問題の話はよく聞くがあまり実感がわからないので、自分との生活との関連を見せてもらいたい

- 遠いところで他人に起きたことであると、あまり意識しない。それが、遠くても例えば自分の親戚が関わっていたとなると身近に感じる。つまり、気づきが必要。個人として、問題との関係に気づけるといいのではないか。
- %とか統計数字やグラフを見せられても、知識として頭に入るだけ。
- 知識として、頭で理解してもなかなか動かない。心に危機感を持つ必要がある。
- 生活と結びついたメッセージがあるといい。問題に対する解決策を見せてもらいたい。ただ、これが問題だといわれてもどうしていいかわからない。
- 映像を見るだけでなく、その後に感想をいい合うなど共有できる時間があるといい。

上記のようなコメントの内容も鑑みた上で、映像製作を実施した。

4. 環境教育について活動している団体への情報提供

小中高等学校などで環境教育を実施している団体と意見交換し、現場の状況を聞き、情報提供を行った。

<意見交換内容>

■環境学習を主に小学校を対象に実践している NPO

聞き取り内容： 最近の小学校教育では、知識を一方的に与えるのではなく、体験を通して学ぶということを重視している。環境学習研究会では、環境教育を実施するにあたり、「教える」というよりは、子供に「気付かせる」「感性に訴える」ということを心がけている。

小学校では、「世界」について社会科で学ぶのが小学校 5 年生、また政治などについて学ぶのが小学校 6 年生であり、本キャンペーン事業の「世界の森林減少・劣化問題」または、「世界とつながる私たちの暮らし」というようなテーマはまだ難解ではないか。とくに体験学習を重視したい場合、例えば、どこかの熱帯雨林を実際に見に行くということができれば別であるが、ただ知識として、「世界で森林が減少している」ということを教えても「学び」にならないと思われる。小学生であれば、まずは、自分の学校の校庭にある木、地域の森、日本全体の森ということを想像させた上で、やっと日本以外でも森があるということを少し気づかせる程度ではないか。

子供に対して教える場合は、子供に受ける言葉（例：森は私たちを守るスーパーマン！）を用い、単純化し、さらにびっくりさせるような手法（多少ショッキングな写真など。例：大洪水、土砂崩れ）を用い、さらにそれと身近な自分たちの暮らしへ結びつけるような工夫をすると効果的。また集中してもらえそうな手法も必要。3 択クイズなどもよく使われているよう。映像を見せるのであれば、集中力が持つのは、8 分～10 分。ストーリー性がある方がよりよい。

小学校では、子供の意欲を引き出すようなきっかけ作り、気付きを与えることが大事。子供は心に訴えかけられ、興味を持てば、自分でさらに調べる力を持っている。また、日々の暮らしと関連づけられることも重要。

■環境学習を実施している現役の高校の先生などのネットワーク

聞き取り内容： 以前、環境省が環境学習プログラムを作成するのを手伝ったことがあるが、できあがってからの教材の配布が難しかったと記憶している。環境省から直接各学校へ送付していたようであったが、そうした場合、誰の手元に届くかということで、その教材が生かされるのか、ただ保管して終わってしまうかがわかれてしまう。

教材を実際に授業で使用してもらうためには、学習指導要領のどこで使えるかを明示してあげると効果的である。授業の案は、年度計画を作成している。9 月ごろから先生は準備を始め、年末、年明けごろに確定しているので、これを念頭において、働きかける必要がある。高校であっても、楽しく学べるような工夫が重要。

■小中学校における環境教育のネットワーク団体

聞き取り内容： 温暖化防止について小学校では扱っているので、その関連で森林減少問題は重要なテーマである。温暖化以外では、環境教育のテーマとしては、3R や江戸川区ではもったいない運動ということで省エネのための取り組みなども積極的にやっている。もったいないという観点から、森林減少問題というと、木を使うのはよくない、森林は伐採されるべきでないというように単純に子供は考えてしまうかもしれないので、「持続可能」に使用すればいいということを伝えるのは効果的であろう。小学校 6 年生ぐらいであれば、経済についても学ぶので、経済との関連からも木を使わない方がいい、という論理ではなく、木を使って、経済も支えるということも理解してもらえる。

小学校の高学年であれば、このような世界の森林減少問題も扱うことは可能であろう。いずれにしても、自分の身近なものから入っていくようなかたちにする。例えば割り箸など。また森林認証制度について説明するのであれば、その制度がどういうものなのか、どんな木が森林認証されているのかなどが子供にもわかるような説明が必要ではないか。

この学校では、各教室に大きな画面やプロジェクターが設置されているので、映像を使った授業は可能で、先生によっては多用している。

5. 映像教材についての案内送付先

- ・ 47 都道府県教育委員会
- ・ 18 政令指定都市教育委員会

- ・ 大学（農学部林学系）

日本大学	生物資源科学部	森林資源科学科
------	---------	---------

北海道大学	農学部 森林科学科
岩手大学	農学部 共生環境課程
宇都宮大学	農学部 森林科学科
東京農業大学	地域環境科学部 森林総合科学科
東京農工大学	農学部 地域生態システム学科
信州大学	農学部 森林科学科
岐阜大学	応用生物科学部 生産環境科学課程
静岡大学	農学部 環境森林科学科
三重大学	生物資源学部 共生環境学科
京都大学	農学部 森林科学科
京都府立大学	生命環境学部 森林科学科
島根大学	生物資源科学部 生態環境科学科
琉球大学	農学部 亜熱帯農林環境科学科

・大学（環境学部系 100 校）

酪農学園大学	環境システム学部 地域環境学科
酪農学園大学	環境システム学部 環境マネジメント学科
東北学院大学	教養学部 地域構想学科
江戸川大学	社会学部 ライフデザイン学科
江戸川大学	社会学部 経営社会学科
江戸川大学	メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科
城西国際大学	環境社会学部 環境社会学科
日本大学	生物資源科学部 食品ビジネス学科
日本大学	生物資源科学部 食品生命学科
日本大学	生物資源科学部 国際地域開発学科
日本大学	法学部 公共政策学科
日本大学	法学部 新聞学科
日本大学	文理学部 社会学科
日本大学	国際関係学部 国際関係学科
日本大学	国際関係学部国際ビジネス情報学科
日本大学	生産工学部 環境安全工学科
津田塾大学	学芸学部 国際関係学科
和光大学	現代人間学部 身体環境共生学科
大東文化大学	環境創造学部 環境創造学科
武蔵野大学	環境学部 環境学科 環境学専攻/都市環境専攻
武蔵野大学	環境学部 環境学科 環境学専攻/都市環境専攻
国土館大学	文学部 史学地理学科・地理・環境専攻
国学院大学	経済学部 経済ネットワークキング学科
早稲田大学	人間科学部 人間環境科学科
金城学院大学	生活環境学部 生活マネジメント学科
金城学院大学	生活環境学部 環境デザイン学科
金城学院大学	生活環境学部 環境デザイン学科

平成 21 年度木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務報告書

佛教大学	社会学部 公共政策学科
近畿大学	総合社会学部 総合社会学科
神戸国際大学	経済学部 都市環境・観光学科
神戸山手大学	現代社会学部 環境文化学科
広島修道大学	人間環境学部 人間環境学科
沖縄国際大学	経済学部 地域環境政策学科
星槎大学	共生科学部(通信制) 共生科学科
北海道教育大学	教育学部 人間地域科学課程（函館校）
岩手大学	人文社会科学部 環境科学課程
東北大学	農学部 生物生産科学科
茨城大学	教育学部 人間環境教育課程
筑波技術大学	産業技術学部 総合デザイン学科
筑波大学	社会・国際学群 国際総合学類
群馬大学	工学部 社会環境デザイン工学科
跡見学園女子大学	マネジメント学部 生活環境マネジメント学科
埼玉大学	経済学部 社会環境設計学科
聖学院大学	人間福祉学部 人間福祉学科
千葉科学大学	危機管理学部 危機管理システム学科
千葉商科大学	政策情報学部 政策情報学科 環境コース
東京情報大学	総合情報学部 環境情報学科
和洋女子大学	家政学群 生活環境学類
お茶の水女子大学	生活科学部 人間・環境科学科
慶應義塾大学	環境情報学部 環境情報学科
恵泉女学園大学	人間社会学部 人間環境学科
駒澤大学	文学部 地理学科・地域環境研究専攻
東海大学	教養学部 人間環境学科・社会環境課程
東京家政大学	家政学部 環境教育学科
東京学芸大学	教育学部 環境総合科学課程
東京大学	教養学部 広域科学科 広域システム分科
東京大学	工学部 社会基盤学科
東京大学	工学部 システム創成学科
東京都市大学	環境情報学部 環境情報学科
東京農業大学	国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科
東洋大学	国際地域学部 国際地域学科
東洋大学	総合情報学部 総合情報学科
法政大学	人間環境学部 人間環境学科
法政大学	社会学部 社会政策科学科
立教大学	社会学部 現代文化学科
横浜国立大学	教育人間科学部 地球環境課程
新潟大学	教育学部 生活科学課程
福井大学	教育地域科学部 地域科学課程
信州大学	人文学部 人間情報学科

長野大学	環境ツーリズム学部 環境ツーリズム学科
富士常葉大学	社会環境学部 社会環境学科
名古屋産業大学	環境情報ビジネス学部 環境情報ビジネス学科
名古屋大学	農学部 生物環境科学科
人間環境大学	人間環境学部人間環境専攻環境保全コース/環境社会計画コース
三重大学	人文学部 文化学科
四日市大学	環境情報学部 環境情報学科
滋賀県立大学	環境科学部 環境政策・計画学科
滋賀大学	教育学部 環境教育課程
京都大学	農学部 食料・環境経済学科
立命館大学	文理総合インスティテュート(経済・経営学部) 環境・デザイン
大阪芸術大学	芸術学部 環境デザイン学科
大阪産業大学	人間環境学部 生活環境学科
関西大学	社会安全学部 社会安全学科
甲南女子大学	人間科学部 生活環境学科
神戸女学院大学	人間科学部 環境・バイオサイエンス学科
兵庫県立大学	環境人間学部 環境人間学科
和歌山大学	経済学部 市場環境学科
鳥取環境大学	環境情報学部 環境政策経営学科
鳥取環境大学	環境情報学部 環境マネジメント学科
鳥取大学	地域学部 地域環境学科
吉備国際大学	国際環境経営学部 環境経営学科 (環境経営コース/知的財産経営コース/食農経営コース)
広島大学	総合科学部 総合科学科
徳島大学	総合科学部 社会創生学科・環境共生コース
産業医科大学	産業保健学部 環境マネジメント学科
福岡工業大学	社会環境学部 社会環境学科
福岡工業大学	工学部 生命環境科学科
福岡女子大学	人間環境学部 生活環境学科
長崎総合科学大学	環境・建築学部 人間環境学科 環境技術コース/地域共生コース
長崎大学	環境科学部 環境科学科
熊本県立大学	環境共生学部 居住環境学科/食健康科学科

・大学院（環境学部系 72 校）

帯広畜産大学大学院	畜産学研究科 生物資源化学専攻
北海道大学大学院	環境科学院 環境起学専攻
北海道大学大学院	環境科学院 地球圏科学専攻
北海道大学大学院	環境科学院 生物圏科学専攻
青森大学大学院	環境科学研究科 環境管理学専攻
青森大学大学院	環境科学研究科 環境教育学専攻
岩手大学大学院	農学研究科
東北大学大学院	環境科学研究科 環境科学専攻

平成 21 年度木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務報告書

山形大学大学院	農学研究科 生物環境学専攻
茨城大学大学院	農学研究科 地域環境科学専攻
筑波大学大学院	生命環境科学研究科
宇都宮大学大学院	農学研究科
埼玉大学大学院	理工学研究科 環境システム工学系専攻
千葉工業大学大学院	工学研究科 生命環境科学専攻
慶應義塾大学大学院	理工学研究科 開放環境科学専攻
芝浦工業大学大学院	工学研究科 地域環境システム専攻
首都大学東京大学院	都市環境科学研究科
上智大学大学院	地球環境学研究科 地球環境学専攻
東海大学大学院	地球環境科学研究科 地球環境科学専攻
東海大学大学院	人間環境学研究科 人間環境学専攻
東京工業大学大学院	総合理工学研究科 環境理工学創造専攻
東京大学大学院	農学生命科学研究科
東京大学大学院	新領域創成科学研究科 自然環境学専攻
東京都市大学大学院	環境情報学研究科 環境情報学専攻
東京農業大学大学院	農学研究科 環境共生学専攻
東京農工大学大学院	農学府 自然環境保全学専攻
日本女子大学大学院	人間生活学研究科 生活環境学専攻
日本大学大学院	総合科学研究科 環境科学専攻
日本大学大学院	生物資源科学研究科 生物環境科学専攻
法政大学大学院	環境マネジメント研究科
武蔵野大学大学院	環境学研究科 環境マネジメント専攻
立正大学大学院	地球環境科学研究科
早稲田大学大学院	創造理工学研究科 地球・環境資源理工学専攻
早稲田大学大学院	環境・エネルギー研究科
横浜国立大学大学院	環境情報研究院・環境情報学府
新潟大学大学院	自然科学研究科
富山大学大学院	理工学教育部 地球生命環境科学専攻
石川県立大学大学院	生物資源環境学研究科 環境科学専攻
金沢大学大学院	自然科学研究科
信州大学大学院	農学研究科
静岡大学大学院	農学研究科
名古屋産業大学大学院	環境マネジメント研究科
名古屋大学大学院	環境学研究科
人間環境大学大学院	人間環境学研究科 人間環境専攻
三重大学大学院	生物資源学研究科
滋賀県立大学大学院	環境科学研究科
京都大学大学院	農学研究科
京都大学大学院	地球環境学舎
京都府立大学大学院	生命環境科学研究科 環境科学専攻
大阪産業大学大学院	人間環境学研究科

大阪府立大学大学院	生命環境科学研究科
近畿大学大学院	農学研究科 環境管理学専攻
神戸大学大学院	人間発達環境学研究科
兵庫県立大学大学院	環境人間学研究科
鳥取環境大学大学院	環境情報学研究科
島根大学大学院	総合理工学研究科 地球資源環境学専攻
島根大学大学院	生物資源科学研究科 環境資源科学専攻
岡山大学大学院	環境学研究科
広島大学大学院	総合科学研究科 環境科学部門
広島大学大学院	生物圏科学研究科 環境循環系制御学専攻
山口大学大学院	農学研究科 生物資源科学専攻
徳島大学大学院	総合科学教育部
愛媛大学大学院	農学研究科
九州大学大学院	生物資源環境科学府
福岡工業大学大学院	社会環境学研究科
長崎大学大学院	生産科学研究科 環境科学専攻
熊本学園大学大学院	社会福祉学研究科 社会環境学専攻
熊本県立大学大学院	環境共生学研究科
熊本大学大学院	自然科学研究科
宮崎大学大学院	農学研究科
宮崎大学大学院	農学工学総合研究科 資源環境科学専攻
鹿児島大学大学院	農学研究科

・ NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議の会員

(郵送可能なところ 83 件)

- ・ 櫻木神社社務所
- ・ 日本ソーラーエネルギー教育協会
- ・ 特定非営利活動法人開発教育協会/DEAR
- ・ 特定非営利活動法人開発教育協会/DEAR 大阪事務所
- ・ 北九州 ESD 協議会 事務局
- ・ グローバルプロジェクト推進機構 (JEARN)
- ・ 特定非営利活動 (NPO) 法人コモンビート
- ・ 立教大学 ESD 研究センター
- ・ 水を考える女性会議
- ・ 株式会社日本エコプランニングサービス
- ・ 岡山大学ユネスコチェア
- ・ カリタス女子中学高等学校
- ・ 特定非営利活動法人 地球緑化センター
- ・ 倉吉北ライオンズクラブ
- ・ (株)フルハシ環境総合研究所 本社
- ・ (株)フルハシ環境総合研究所 東京事務所
- ・ 堺市女性団体協議会 (BPW 堺クラブ)
- ・ (財)北海道国際交流センター

- NPO 法人 国頭ツーリズム協会
- NPO 法人 地球と未来の環境基金
- 財団法人 日本環境協会 日本橋オフィス
- 日本自然環境専門学校
- (社) 部落解放・人権研究所
- ヒューライツ大阪(財団法人アジア・太平洋人権情報センター)
- 北海道大学
- (財) 京都ユースホステル協会
- NPO 法人 環境市民
- 環境市民 東海事務所
- 環境市民 滋賀事務所
- NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティー
- NPO 法人 サイカチネイチャークラブ
- NPO 法人 岩木山自然学校
- NPO 法人 くすの木自然館
- NPO 法人 コミネット協会
- (財) アジア女性交流・研究フォーラム
- おおさか識字・日本語センター
- NPO いきいき小豆島事務所
- NPO 法人しずおか環境教育研究会 (エコエデュ)
- NPO 法人自然育児友の会
- 国立大学法人 岩手大学
- NPO 法人 自然文化国際交流協会
- 財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
- 国立大学法人 筑波大学 農林技術センター
- 岡山市役所
- 日本ホリスティック教育協会事務局
- (有) プラス・サーキュレーションジャパン
- 社団法人 日本ユネスコ協会連盟
- とやま国際理解教育研究会
- 特定非営利活動法人 エコテクノロジー研究会
- 特定非営利法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
- 財団法人ボーイスカウト日本連盟
- 特定非営利活動法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
- 特定非営利活動法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター
- 財団法人オイスカ
- NPO法人やまぼうし自然学校
- NPO 法人 ほっとねっと
- 特定非営利活動法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
- 特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク
- 特定非営利活動法人 環境文化のための対話研究所
- 財団法人 日本 YMCA 同盟
- 財団法人 日本野鳥の会
- ホールアース自然学校

- ・ 日本ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン (GCPEJ)
- ・ 社団法人 農山漁村文化協会
- ・ 財団法人日本ユニセフ協会
- ・ 社団法人 日本ネイチャーゲーム協会
- ・ 社団法人 日本自然保護協会 (NACS - J)
- ・ 社団法人日本環境教育フォーラム
- ・ 日本アウトドアネットワーク
- ・ 帝塚山学院大学国際理解研究所
- ・ 環境テレビトラスト日本委員会 (TVE ジャパン)
- ・ 地球環境を守る会「リーフ」
- ・ 特定非営利活動法人 生態教育センター
- ・ 特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会
- ・ 特定非営利活動法人 国際自然大学校
- ・ 特定非営利活動法人 くりこま高原・地球の暮らしと自然教育研究所
- ・ くりこま高原自然学校
- ・ 特定非営利活動法人 グリーンウッド自然体験教育センター
- ・ 環境・国際研究会
- ・ 社団法人 ガールスカウト日本連盟
- ・ 岡山ユネスコ協会
- ・ NPO 法人 ECOPLUS
- ・ NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター

・ **日本環境教育学会 事務局、役員・委員**

役員および各委員会委員 36 名

・ **全国国際教育研究協議会**

役員及び都道府県事務局の各担当者宛

都道府県事務局	学校名
全国国際教育研究協議会 会長／ 東京都国際教育研究協議会 会長	神代高校
全国国際教育研究協議会 事務局長	新宿山吹高校(通)
全国国際教育研究協議会 会計	玉川聖学院
全国国際教育研究協議会 副事務局長	新宿山吹高校(定)
全国国際教育研究協議会 副事務局長	六本木高校
全国国際教育研究協議会 副事務局長	文京学院大学女子高校
北海道全国国際教育研究協議会事務局	帯広農業高校
青森県全国国際教育研究協議会事務局	三本木農業高校
岩手県全国国際教育研究協議会事務局	花巻南高校
宮城県全国国際教育研究協議会事務局	宮城野高校
秋田県全国国際教育研究協議会事務局	能代北高校
山形県全国国際教育研究協議会事務局	金山高校
福島県全国国際教育研究協議会事務局	須賀川桐陽高校
新潟県全国国際教育研究協議会事務局	新発田農業高校

平成 21 年度木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務報告書

茨城県全国国際教育研究協議会事務局	藤代高校
栃木県全国国際教育研究協議会事務局	足利南高校
群馬県全国国際教育研究協議会事務局	館林女子高校
埼玉県全国国際教育研究協議会事務局	春日部女子高校
千葉県全国国際教育研究協議会事務局（会長）	薬園台高校
千葉県全国国際教育研究協議会事務局（事務局長）	松戸国際高校
東京都全国国際教育研究協議会事務局（事務局長）	一橋高校（通）
山梨県全国国際教育研究協議会事務局	山梨園芸高校
長野県全国国際教育研究協議会事務局	下高井農業高校
神奈川県全国国際教育研究協議会事務局	白山高校
静岡県全国国際教育研究協議会事務局	静岡城北高校
富山県全国国際教育研究協議会事務局	桜井高校
石川県全国国際教育研究協議会事務局	七尾東雲高校
岐阜県全国国際教育研究協議会事務局	各務原高校
愛知県全国国際教育研究協議会事務局	御津高校
三重県全国国際教育研究協議会事務局	四日市農芸高校
福井県全国国際教育研究協議会事務局	大野高校
滋賀県全国国際教育研究協議会事務局（会長）	湖南農業高校
滋賀県全国国際教育研究協議会事務局（事務局長）	大津高校
京都府全国国際教育研究協議会事務局	城陽高校
大阪府全国国際教育研究協議会事務局（会長）	岸和田高校
大阪府（事務局長）	箕面高校
奈良県全国国際教育研究協議会事務局（会長）	法隆寺国際高校
奈良県全国国際教育研究協議会事務局（事務局長）	奈良高校（通）
和歌山県全国国際教育研究協議会事務局	南部高校
兵庫県全国国際教育研究協議会事務局	宝塚西高校
鳥取県全国国際教育研究協議会事務局	青谷高校
岡山県全国国際教育研究協議会事務局	高松農業高校
島根県全国国際教育研究協議会事務局	出雲農林高校
広島県全国国際教育研究協議会事務局	安芸府中高校
山口県全国国際教育研究協議会事務局	高森高校
徳島県全国国際教育研究協議会事務局	海部高校
香川県全国国際教育研究協議会事務局	高松第一高校
愛媛県全国国際教育研究協議会事務局	伊予農業高校
高知県全国国際教育研究協議会事務局	高知農業高校
福岡県全国国際教育研究協議会事務局	久留米高校
佐賀県全国国際教育研究協議会事務局	伊万里農林高校
長崎県全国国際教育研究協議会事務局	長崎商業高校
大分県全国国際教育研究協議会事務局	別府羽室台高校
宮崎県全国国際教育研究協議会事務局	都城泉ヶ丘高校
鹿児島県全国国際教育研究協議会事務局	志布志高校
沖縄県全国国際教育研究協議会事務局	未来工科高校

・全国環境パートナーシップオフィス（EPO）

- ・ EPO 北海道
- ・ 東北環境パートナーシップオフィス
- ・ EPO 中部
- ・ 近畿環境パートナーシップオフィス
- ・ EPO ちゅうごく
- ・ 四国 E P O
- ・ 九州環境パートナーシップオフィス

・環境情報施設（環境らしんばんより 55 件抽出）

- ・ 神奈川県立地球市民かながわプラザ
- ・ 大阪府環境情報プラザ
- ・ 札幌市環境プラザ
- ・ 仙台市環境交流サロン
- ・ 宮城県環境情報センター
- ・ みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
- ・ 十勝環境複合事務組合くりりんセンター
- ・ リサイクルプラザ苫小牧
- ・ 北海道環境サポートセンター
- ・ いわて環境学習交流センター
- ・ 山形県環境科学研究センター
- ・ いわき市リサイクルプラザ クリンピーの家
- ・ ちば環境情報センター
- ・ 埼玉県環境科学国際センター
- ・ 新宿区立環境学習情報センター
- ・ 自然環境情報ひろば 丸の内さえずり館
- ・ 埼玉県自然学習センター
- ・ 板橋区立エコポリスセンター
- ・ 品川区環境情報活動センター
- ・ 環境学習情報館 えこっくる江東
- ・ 環境学習情報センター あらかわエコセンター
- ・ 台東区立環境ふれあい館ひまわり
- ・ 港区立エコプラザ
- ・ 目黒区立平町エコプラザ
- ・ 神奈川県環境科学センター
- ・ 財団法人とやま環境財団
- ・ 名古屋市環境学習センター（エコパルなごや）
- ・ 越前市エコビレッジ交流センター
- ・ 上越市環境情報センター
- ・ 上越市地球環境学校中ノ俣学習施設
- ・ 山梨県環境科学研究所
- ・ 長野県環境保全研究所 飯綱庁舎
- ・ 石川県消費生活支援センター

- 石川県 県民エコステーション
- 豊田市環境学習施設 eco-T
- 三重県環境学習情報センター
- 三重環境県民会議
- 四日市市環境学習センター
- 淡海ネットワークセンター（淡海文化振興財団）
- 京都市環境保全活動センター 京エコロジーセンター
- 地球デザインスクール
- 大阪市立環境学習センター 生き生き地球館
- おおさか ATC グリーンエコプラザ
- ひょうごエコプラザ
- あまがさきルーム・エコクラブ
- 西宮市環境学習サポートセンター
- （財）広島県環境保健協会内 「環境と健康の学習ルーム」
- 岡山市環境情報センター
- 熊本県環境センター
- 沖縄県地域環境センター
- 福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」
- 熊本市環境総合センター
- 宮崎県環境情報センター
- 屋久島環境文化村センター
- 屋久島環境文化研修センター

第 5 章 出前講座の実施

森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化について、木材製品等の生産者と消費者に対して普及を図るため、全国を対象として、住宅関連団体及び企業、家具・DIY 関連団体及び企業、消費者団体、環境関連団体等における勉強会、また大学等における環境教育の授業や各種イベント等において出前講座を 53 回実施した。対象に応じて、講座内容や配布資料を変え、よりわかりやすい講座になるように努めた。講座実施時には、下記の資料から抜粋したものを配布した。配布資料のコピーは、添付資料 4 を参照。

1. 配布資料

環境省パンフレット「世界の森林を守るために」
環境省ちらし「世界の森林は刻々と減少しています。」
フェアウッドパンフレット

2. 講師リスト

坂本 有希	(財)地球・人間環境フォーラム企画調査部長／フェアウッド担当
根津 亜矢子	(財)地球・人間環境フォーラム企画調査部研究員／フェアウッド担当
飯沼 佐代子	(財)地球・人間環境フォーラム企画調査部研究員／フェアウッド担当
岡崎 時春	国際環境 NGO FoE Japan 森林プログラム／フェアウッド担当
中澤 健一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プログラム／フェアウッド担当
三柴 淳一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プログラム／フェアウッド担当
木村 輝一郎	フェアウッド・パートナーズ
三上 雄己	フェアウッド・パートナーズ

3. 出前講座実施リスト

No.	日時	イベント・実施団体名	住所	参加人数
1	2009/4/9	大学	東京都港区	25 人
2	2009/4/16	インテリアプランナー向け	東京都新宿区	100 人
3	2009/4/20	家具メーカー	東京都渋谷区	20 人
4	2009/5/24	一般	神奈川県鎌倉市	25 人
5	2009/6/8	美容師向け	東京都渋谷区	21 人
6	2009/6/9	大学	埼玉県新座市	40 人
7	2009/6/11	NGO	東京都目黒	50 人
8	2009/6/14	一般	東京都秋葉原	20 人
9	2009/6/25	丸の内さえざり館	東京都千代田区	30 人
10	2009/7/4	NGO	東京都渋谷区	12 人
11	2009/7/23	丸の内さえざり館	東京都千代田区	14 人
12	2009/7/25	一般	東京都目黒区	34 人
13	2009/8/2	一般	東京都渋谷区	10 人
14	2009/8/5	家具メーカー	東京都渋谷区	33 人
15	2009/8/19	企業	埼玉県八潮市	20 人
16	2009/8/22	企業	千葉県浦安市	10 人

平成 21 年度木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務報告書

17	2009/8/24	一般	大阪府大阪市	30 人
18	2009/8/27-29	Japan DIY Homecenter Show	千葉県千葉市	60 人
19	2009/8/27	丸の内さえずり館	東京都千代田区	16 人
20	2009/9/15	住宅メーカー	東京都渋谷区	100 人
21	2009/9/25	美容師向け	東京都渋谷区	30 人
22	2009/9/26	美容師向け	東京都渋谷区	30 人
23	2009/9/27	美容師向け	東京都渋谷区	30 人
24	2009/9/26	NPO	埼玉県飯能市	30 人
25	2009/10/3	NGO	東京都渋谷区	25 人
26	2009/10/3	森の音楽祭	山梨県清里	200 人
27	2010/10/9	大学	東京都港区	30 人
28	2009/10/11-12	ロハスフェスタ	大阪府万博記念公園	のべ 200 人
29	2009/10/13	高校	東京都文京区	7 人
30	2010/10/15	大学	東京都港区	20 人
31	2009/10/18	一般	滋賀県近江八幡市	15 人
32	2009/10/19	一般	京都府京都市	15 人
33	2009/10/22	大学	東京都世田谷区	7 人
34	2009/10/23	大学	東京都千代田区	6 人
35	2009/10/24	NPO	静岡県富士宮市	20 人
36	2009/10/29	NPO	東京都豊島区	25 人
37	2009/10/30-11/3	東京デザイナーズウィーク 2010	東京都港区	50 人
38	2009/11/6	企業	東京都港区	30 人
39	2009/11/11-13	ジャパンホームビルディングショー	東京都江東区	のべ 50 人
40	2009/11/14-15	ライフスタイルフォーラム	東京都新宿区	のべ 100 人
41	2009/11/29	アースフェスタ世田谷アースヴィレッジ	東京都世田谷区	30 人
42	2009/12/4	家具メーカー	東京都江東区	50 人
43	2009/12/10-12	エコプロダクツ 2009	東京都港区	100 人
44	2009/12/20	一般	群馬県伊香保	20 人
45	2010/1/15	大学	埼玉県新座市	53 人
46	2010/1/24	環境福祉学会	東京都千代田区	100 人
47	1/13-1/16	きこりんの森	東京都港区	200 人
48	2010/2/6	新宿まちの先生見本市	東京都新宿区	50 人
49	2010/2/17	企業	大阪府大阪市	10 人
50	2010/3/20	一般	山形県鶴岡市	35 人
51	2010/3/25	企業	東京都港区	20 人
52	2010/3/27	一般	東京都目黒区	6 人
53	2010/3/31	一般	静岡県焼津市	20 人

4. 出前講座の実施風景

●学生

日時：10月13日（金）10:00-11:30

場所：地球・人間環境フォーラム会議室



●企業

日時：3月25日（木）

場所：



第 6 章 政府広報を通じた情報提供

環境省の取り組みとして、テレビ番組の政府広報において、森林減少問題や木材のグリーン化についての番組製作を実施した。

（１）峰竜太のナッ得ニッポン「木材調達のグリーン化を通じた違法伐採対策」

講師： 地球・人間環境フォーラム 坂本有希

放送日時： 2009 年 8 月 28 日 21:30-22:00、30 日 11:00-11:30 放送

放送局： BS 朝日

第 7 章 今後の課題

同キャンペーンを継続するにあたり、今年度の活動を踏まえ、検討すべき事業の提案を以下に述べる。

(1) 今回作成した教材の活用について

今年度は、本キャンペーン事業のテーマを鑑み、高校生・大学生を対象として、映像教材を製作したが、これを実際に高校や大学の授業で活用してもらうために、働きかけを継続して行うべきと考える。今年度の事業には、教材を普及させる部分までは含まれていなかったため、今後は普及するための働きかけを実施すべきである。

また、今回作成した映像をもとにし、マニュアルの内容をより充実させる、実践にあったものに改善させることを優先すべきと考える。

今回検討委員を依頼した委員の所属団体や聞き取りを行った環境教育を実施している団体との協力にもとづいて、映像教材を活用した授業案を環境問題に関心のある教員等から募集し、開発するなども考えられるのではないかな。

(2) 対象年齢について

実際に小学生に環境教育を実施している団体への聞き取りの結果、小学生では、まず 4 年生以下では、「世界」ということを理解してもらうのは難しく、5 年生以上で、授業で多少学んだとしてもまだかなり難解なテーマである。しかしながら、やり方によっては、小学校の高学年であれば、対象になると思われる。低学年を対象とするのは、非現実的と思われる。

今回の教材を作成するにあたり、重要な言葉は「世界の森林減少・劣化問題」「違法伐採」「持続可能な森林経営」「木材の持続可能性・合法性」などであり、それらの言葉を必ず教材の中に含ませることが求められたが、以上すべての言葉が小学生に理解してもらうには、難解すぎると考えられる。こういう状況の中で、あえてこの「世界の森林減少問題と私たちの暮らし」ということを小学生レベルでも理解してもらいたいということであれば、上記キーワードからエッセンスを抽出するのか、一つでも子供に理解してもらいたいことを単純化し、それをどう伝えるかを専門家を交えた上で、この内容を決定するためだけに 1 年ほどかけて、深く議論する必要があると考える。今回のようにすべての要素をさまざまな観点から網羅するような教材作成は、ふさわしくないのではないかな。

小学生に対しては、とくに自分たちの身近な部分、生活との接点が求められる。こういう観点からは、どうしても国内の林業や森林の役割ということに触れるのが自然である。このような場合、もし可能であるならば林野庁との共同事業のようなものにし、世界の森林問題を扱うだけでなく日本の森についても情報を提供できると有益であると考ええる。

また、環境省で環境教育を取り扱っている部局や文部科学省の環境教育を担当する部署との情報共有や情報交換を実施した方がシナジー効果が得られると考える。

(3) 出前講座の実施について

今後は作成した DVD 教材と指導マニュアルを活用した講座も適宜実施していきたい。出前講座は、実施先の要望もあり、一方的に押し付けることはできないが、講義形式で、情報だけを伝えるのではなく、参加者同士ディスカッションをするなど、ワークショップのような形式での講座もこの問題の理解に役立つのではないかな。

今年度の出前講座において活用したフェアウッド・パートナーズ制作のドキュメンタリー映像「木の来た道」を一般向け、今回制作した「人と木」を高校生・大学生向けとして、PR していくことでより幅の広い対象者にアプローチできると考える。

ワークショップ形式の講座を展開するためには、その手法の開発・検証が必要になるだろう。

(4) 消費者団体への働きかけ

多くの消費者団体は、多重債務、食の安全、悪質商法など、消費者の生活の安全を緊急な課題としていることが多い。また、環境問題を扱う場合でも、温暖化問題、3R、また昨今は生物多様性の話題などを扱っているが、森林減少問題については、重要性を理解はしていてもなかなか取り組む余裕のないのが現状のようである。今後は、今年度作成した DVD 教材が提供できることなども伝えながら、引き続き粘り強く働きかけを行うのがいいのではないか。または、「紙」や「住居（木造）」など、ある製品に特化したかたちでアプローチをした方が、消費者団体もとりかかりやすいかもしれない。

フェアウッドクイズの例

☆フェアウッドクイズ☆

世界の森林と私たちの暮らしのつながり



問題 1

日本で使われている割り箸はどこで一番多く作られているでしょうか？

①日本 ②韓国 ③中国



正解は・・・

③ 中国

→ 現状を見てみよう！



日本で使われている割り箸はどこから？

●現在、日本国内では年間250億膳もの割り箸が使われている

●実はその98%は海外から輸入されたもの(そのうち99%は中国製)

●輸入箸の激増により日本の割り箸工場数は急激に減少している

出典：国産材割り箸(割箸・わりばし)森林・林業学習館HP
「割り箸とその現状」より
(<http://www.shinrin-ringyou.com/topics/waribashi.php>)

問題 2

日本の森林面積は国土の何割でしょうか？

①約3割
②約5割
③約7割

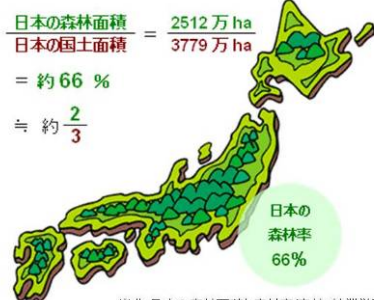
正解は・・・

③約7割

→ 現状を見てみよう！



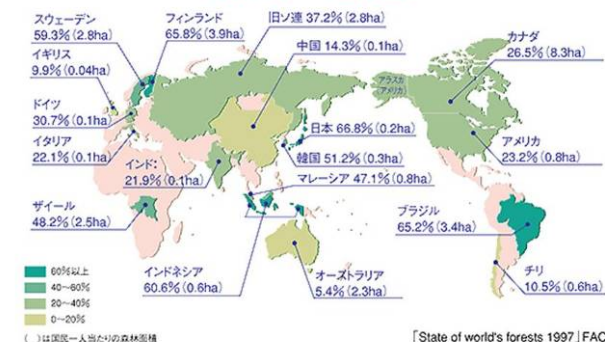
日本の森林面積



出典:日本の森林面積と森林率/森林・林業学習館HPより
(http://www.shinrinigyou.com/forest_japan/menseki_japan.php)

木の未来から、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

森林の割合



出典:みんなの森データバンクより(<http://www.mimano.com/area/area/201.html>)

木の未来から、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

問題3

以下の国の中で、国の面積に占める森林の割合が一番大きい国はどこでしょう？

- ①ロシア ②カナダ
③中国 ④日本

木の未来から、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

問題4

世界で1年に失われている森林面積はどれくらいでしょう？

- ①日本の面積の3分の1
②日本の面積の5分の1
③日本の面積の10分の1

木の未来から、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

正解は・・・

④日本

→ 現状を見てみよう！

木の未来から、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

正解は・・・

①日本の面積の3分の1

→ 現状を見てみよう！

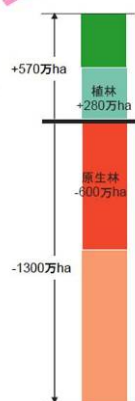
木の未来から、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

原生林、熱帯林の減少

- 世界全体で年間1300万haの森林喪失
- 増加分との差引で年間730万haの純減少
- 原生林の喪失は年間600万ha
- 植林は年間280万ha

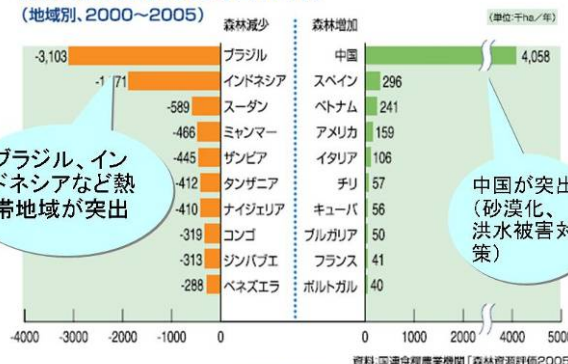
日本の国土面積
の約3分の1

水の流れから、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ



世界の森林では・・・

森林面積の変化の大きな国10ヶ国
(地域別、2000～2005)



ブラジル、インドネシアなど熱帯地域が突出

中国が突出
(砂漠化、洪水被害対策)

FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

問題5

世界で、森林減少が最も大きい国はどこでしょうか？

- ①ブラジル
- ②インドネシア
- ③中国
- ④日本

水の流れから、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

問題6

日本で使われているティッシュペーパーなど紙製品の原料はどこから来ているのでしょうか？

- ①オーストラリア
- ②チリ
- ③中国
- ④日本

水の流れから、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

正解は・・・

①ブラジル

→ 現状を見てみよう！

水の流れから、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

正解は・・・

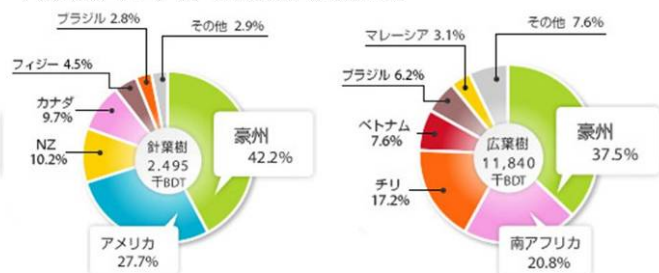
①オーストラリア

→ 現状を見てみよう！

水の流れから、未来をつくる。
FAIRWOOD PARTNERS
フェアウッドパートナーズ

日本の紙はどこから？

パルプ材（チップ）の輸入先（2007年）

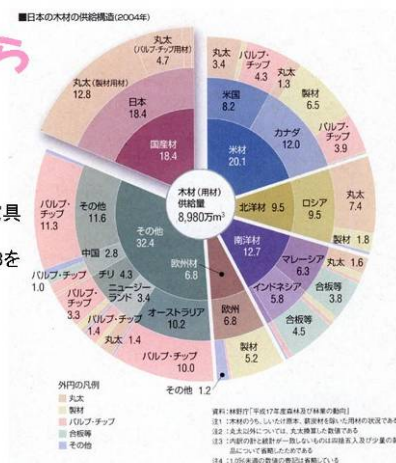


出典：日本製紙連合会HP「製紙産業の現状」より(<http://www.jpap.or.jp/states/index.html>)
資料：財務省「通関統計」

FAIRWOOD PARTNERS
木の道から、未来をつくる。

木材はどこから どのくらい 来てる？

- 紙が4割、残りは建築・土木、家具など
- 太平洋周辺国からの輸入が2/3を占める
 - 米国、カナダ
 - ロシア、
 - マレーシア、インドネシア
 - 豪州、NZ
 - チリ
 - 中国



FAIRWOOD PARTNERS
木の道から、未来をつくる。

問題7

日本の紙や家具などに使われている木材のうち、外国から来ているものはどれくらいあるでしょうか？

- ①約1割
- ②約5割
- ③約8割

FAIRWOOD PARTNERS
木の道から、未来をつくる。

問題8

日本人1人が1日に使う紙の量はどれくらいあるでしょうか？

- ①A4コピー用紙で約80枚
- ②A4コピー用紙で約120枚
- ③A4コピー用紙で約160枚

FAIRWOOD PARTNERS
木の道から、未来をつくる。

正解は...

③約8割

→ 現状を見てみよう！

FAIRWOOD PARTNERS
木の道から、未来をつくる。

正解は...

③A4コピー用紙で約160枚

→ 現状を見てみよう！

FAIRWOOD PARTNERS
木の道から、未来をつくる。

世界の中の日本の紙利用

国民一人当たりの紙・板紙消費量 (2006)



A4コピー用紙で
61,850枚
=1日に160枚
=積み上げると
5.3メートル

出典: 日本製紙連合会HP「製紙産業の現状」より (<http://www.jpap.or.jp/kokuhokoku6/index.html>)・レビュー

FAIRWOOD PARTNERS
木の選れから、未来をつくる。

正解は...

②約1~2割

→ 現状を見てみよう!

FAIRWOOD PARTNERS
木の選れから、未来をつくる。

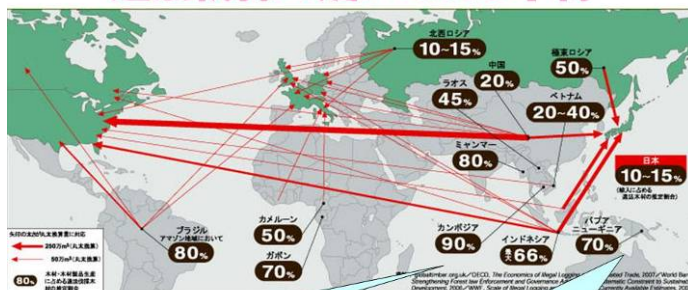
問題9

日本が輸入する木材のうち、
違法伐採の疑いのある木材は
どのくらいあるでしょうか?

- ①ほとんどない
- ②約1~2割
- ③半分以上

FAIRWOOD PARTNERS
木の選れから、未来をつくる。

違法伐採の疑いのある木材



2004年の見積もりでは、インドネシアの伐採の76-80%、PNGの9割以上は違法。

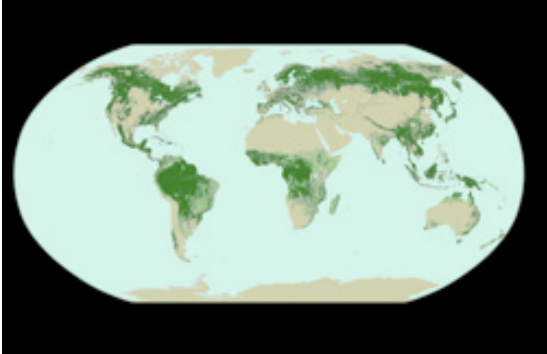
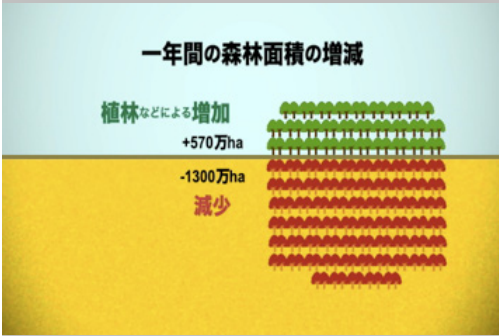
日本に流通する木材・木材製品の2割程度が違法伐採木材によるもの

FAIRWOOD PARTNERS
木の選れから、未来をつくる。

DVD「人と木～世界の森林を守るために、今私たちにできること」

第 1 章 (7 分 21 秒)

ナレーション+INTVW	差し込み映像／写真	キャプション
introduction		
私たちの暮らしの中には、たくさんの、木から出来たものが溢れています。その木は、国内の森からだけではなく、世界中の森からやってきます。	森の映像 	
机や椅子、ノートや雑誌等が、どこかのどんな木から出来たのか、思いを巡らせたことはありますか？それらの木は、どんな森からやってきたのでしょうか？また、森とは、私たち人間にとって、一体どんな存在なのでしょう？	木材製品例 映像 	
chapter 1: 森林の役割／森林と人間		
ナレーション無し	motion graphic 1: 森林の役割 	
ナレーション無し	motion graphic 2: 森林と人間 	

これは現在の世界の森林の分布を表した地図です。緑色の部分が森林です。世界の森林面積は、現在およそ 39.5 億ヘクタール、全陸地面積のおよそ 30% を占めています。	現在の森林分布図  一年間の森林面積の増減  植林などによる増加 +570万ha 減少 -1300万ha	現在の森林の分布 (資料:FAO「森林資源評価 2005」)
世界での森林面積の増減をまとめると、このようになります。 植林もされていますが、減少している森林の量がまっています。毎年、730 万 ha、およそ日本の面積の 1 /5、ちょうど北海道の面積に相当する森林が失われているのです。	一年間の森林面積の増減  -730万ha	世界の森林面積の年平均の増減 (資料:FAO「森林資源評価 2005」)
一体、世界の森林の現場では何が起きているのでしょうか？	森の映像 	

森林の減少は、一見、遠く
の場所で起こっている、私
たちには関係のないこと
のように見えますが、実は、
私たちの暮らしに深く繋が
っているのです。

森→森や製品のモザイク→都市俯瞰→雑踏

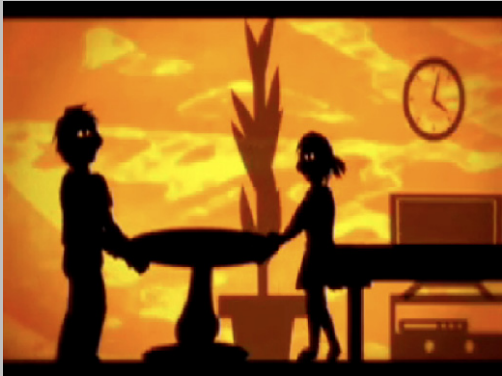


第 2 章（4 分 20 秒）

Chapter2		
ナレーション	差し込み映像／写真	キャプション
世界の森林は刻々と減少・劣化を続けています。この森林減少・劣化の背景には様々な原因があります。	写真： 	森林減少・劣化の原因
人口の増加に伴い、人間は森林を切り開いて農地等へ変え、食糧やお金などを得てきました。	農地等への転換 写真  映像	農地等への転換
開発途上国では、生活に使う燃料を得るために木材が伐採され、人口の増加のために、森林が回復せずに減少しています。 また、自然回復力に配慮しない非伝統的な焼き畑農業が行われることも森林減少・劣化につながっています。	燃料用木材の過剰採取や非伝統的な焼き畑農業の増加 (写真) 	燃料用木材の過剰採取 非伝統的な焼き畑農業の増加

農地開発のための火入れや焼き畑農業などの火の不始末、落雷などによって発生する森林火災も森林減少・劣化の要因の一つです。	森林火災 写真(資料写真(おそらくアメリカの森林火災の写真)) 	森林火災
また、持続可能な森林経営が行われていないことも大きな原因となっており、特に違法伐採問題が指摘されています。 伐採した後に木を植えたり育てたりするコストが含まれていない違法伐採木材製品が、国際市場で不当に安い値段で流通することにより、輸入国の持続可能な森林経営をもさまたげることになるのです。	木材価格の対比のイラスト/違法伐採  	持続可能な森林経営 違法伐採
様々な原因によって引き起こされる森林減少や劣化。これは気候変動の一つの要因となっており、また生物多様性の損失をもたらすなど、私たちの暮らしにも影響を及ぼしています。	気候変動 (洪水)  生物多様性(オランウータンなど)	気候変動 洪水 生物多様性の喪失

		
森林が失われると、水をためておく機能や土砂の流出・崩壊を防止する役目も果たせなくなてなります。 木材だけでなく食べ物や薬草などを森林に頼って生活する地域住民は、森林がなくなれば昔ながらの生活が奪われることになります。	土砂崩れの写真 (資料写真) 森を利用する地域住民の映像 	土壌侵食防止や水源涵養機能の劣化 地域文化・住民生活の破壊
私たちの住んでいる日本は、利用する木材のおよそ8割を輸入に頼っています。	日本地図→世界地図→日本に輸入されている木材量をあらわす矢印 	木材の 8 割を輸入
そして、それらの木材を、住宅・家具・紙製品など様々な形で、私たちは利用しています。 私たちの毎日の暮らしは、海外の森林と深くつながっているのです。	家、家具、紙(本) 木でできた家具などの一般的な映像	

ナレーション無し	motion graphic 3 	
現在、世界で起きている森林減少・劣化の進行を食い止めるために、私たちに今できる事はあるのでしょうか？	森や木、木材製品などを見せる	

第 3 章 (8 分 40 秒)

ナレーション+INTVW	差し込み映像／写真	キャプション
私たちの現代の生活を支えるために、世界では森林が減少・劣化しています。 この問題を解決するために、さまざまな取り組みが行われています。	イメージ映像 (インドネシアの森) 	
日本政府は、「違法に伐採された木材を使用しない」との考え方にに基づき、2006 年に「グリーン購入法」を改正、国などが購入する木材や木材製品について、「合法性」などが証明されたものでなくてはならないという措置を導入しました。 合法性を証明する方法としては、森林認証を活用する方法、業界団体の認定を受けた事業者が証明する方法、事業者独自の取り組みにより証明する方法の三つがあります。 政府調達だけでなく、広く民間企業や一般にも普及を図るために、広報活動も行っています。	日本の森の絵  議事堂の建物の外観  キャンペーンの取組の写真等 地下鉄の中吊りの様子 イベント	グリーン購入法 木材・木材製品の「合法性」が証明されなければならない 合法性、持続可能性の証明 (1) 森林認証を活用する方法 (2) 業界団体の認定を受けた事業者が証明する方法 (3) 事業者独自の取り組みにより証明する方法

この他にも、世界の持続可能な森林経営を推進していくために設置された国連森林フォーラムのような国際的な対話に参画・貢献しています。 また、JICA や国連の条約機関である ITTO などを通じて、開発途上国の取り組みを支援しています。	国連の外観／  会議場の模様 JICA の事業の写真	国際協力機構 (JICA) 国際熱帯木材機関 (ITTO)
一方、民間では、森林認証制度の取り組みが行われています。森林認証制度とは、第三者機関が適切に管理・運営された森林を認証し、そこから出た木材に証明書等を付けて流通させる制度です。認証製品には、各認証機関のラベルが付いているため、トレーサビリティをしっかりと確保することができます。 この他、森林に関係する業界団体なども合法性の証明のための取り組みを行っています。	各認証マーク (PEFC, FSC, SGEC) 認証材製品 FSC や PEFC のノート、コピー紙、鉛筆など 「GOHOWOOD」のポスター	森林認証制度
栃木で代々林業を営んでいる高見林業の齊藤さんは、日本の森林認証制度 SGEC を 2005 年に取得しました。		SGEC の森
齊藤さんの話： 「まだ、一般消費者の方は、森林認証材というものを、良くご存知じゃない。実は。当社に来て、初めて、その森林認証というものを、知る方がほとんどなんですけども。その方々に、国際的な管理基準に、準じた生産してますよ、当社で生産された木	齊藤さんインタビュー、森、木材＋二次元バーコード	高見林業 代表取締役 斎藤正

材は、きちんと循環されてますよ。切っても良い木なんです、ということを説明します。そうすると、みんな安心して、家の材料として、使って下さるんですね。そして、家になった後も、とても愛着を持って暮らして下さるんですけども。」 「一連の流れを明確にするために、我々はですね、一本一本の丸太に二次元バーコードの付いたシリアル番号を打ってます。それを見て、お施主さんは、より一層の、トレーサビリティの確かさというものを感じて下さって、安心して下さるんです。」	 	
日本の森林率が国の面積のおよそ7割もあるという事実に着目し、15年程前から国産材を積極的に使っている、木材流通を担う会社もあります。	木童のショールーム 	
木原さんの話： 「新宿にショールームを持ったのも、もっと山を一般の人達に近づけたと思ったんです。特定な場所に行かないと見れないんかっていう事じゃなくて、都会のど真ん中に木の匂いがあるようなところがあるっていうことを、作りたかった・・・。」 「自分たちが家を作る一という時に、まだ基礎も出来ていない段階で、われわれは木を調達する訳ですから、その時に住まい手を連れて行ってあげると、『私たちの家がほんまに出来る！』という話になって、喜ばれて。こ	木原さんインタビュー、ショールーム内部、木童の建築物件、山、森 	木童 代表取締役 木原 巖 木童新宿ショールーム

の人が製材してくれるからとか、ただか木ですら、こんなに人が関わっている、っていうことも皆分ってくれて……。この前もそうですけど、山から帰るときに、『私は木原さんと知り合って、ほんとに幸せ者ですわ。ほんとに、幸せだったと思います。』って言うから、『まだ、出来てへんで。家は。(笑)』だけど、そこで、それぐらい喜んでくれて……。住まい手が喜んでくれる。」



木原さんのような取り組みは、国内の森から出た、生産者の見える木材の流通にも一役買っています。

日本の森



海外の森



海外とのつながりでは、チーク材を使用した家具を製造・販売している会社が、インドネシアの「コミュニティ・フォレスト」から出る「顔の見える木材」に注目しています。 コミュニティ・フォレストとは、地域の住民が共同で、持続可能な森林経営をしていく形態です。	インドネシアの村風景等 	コミュニティ・フォレスト
大山さんの話： 「われわれが、通常使っているチークというのも、‘プルム・プルフタニ’という、比較的管理されている、世界的に管理されてると認められている森の木を使ってますけども・・・より、コミュニティ・フォレストの木であれば、もっと生産者が誰、切った方が誰、製材した人が誰と、みんなの顔がそれぞれ、ほんとに限定して分ると。まるで・・・野菜なんか一緒ですけども、生産農家の顔が見えるという、それに近いものがコミュニティ・フォレストにはあるので、説明していく上では非常にいいなと思ったんです。」 「非常に、全てが透明である、というところに魅力を感じて。その透明であるって事を、多分世の中の人には、全く知らないというか、普通は知り得ない事なんで。そこをうまく説明、表現していくことを、一緒に商品に盛り込んで行けば、絶対ブランドになるなと。」	大山さんインタビュー、  インドネシアの森、村風景、村の製材所の映像 	イスタナテラス 代表取締役社長 大山典保

大山さんは、このコミュニティー・フォレストの「顔の見える木材」を通じて、売り手や買い手に対して、さらにトレーサビリティの明快な商品の開発を目指しています。	テラス家具 	
「持続可能な森林経営」がなされている森林からの木材製品を積極的に使うことと同時に、木材を大切に使うことも重要です。 店舗や家屋を解体した時にでる廃材を利用し、内装や家具制作をしているラケル・メジェールという会社があります。そこでは、通常は捨てられたり、処分されたりするものを再生させ、新たな物として生き返らせます。	森映像、ラケル工房 	
飯田さんの話： 「無垢材ってことに、すごい僕はこだわっているんですけど…。無垢材っていうのは、永遠にリサイクルし続けられるから。最終的には燃料にもなるし。古くなっても、要するにカンナかけると、もうね、新しいそのまんまのきれいな肌が出て来る。その瞬間が気持ちよくて、たまらないんですよね。」 「ほんとの古い、築 100 年前とか、そういう、しっかりした建物はリサイクルされるようになってますけど、ごく一般的な木造住宅は、ほとんど処分されちゃってるというのが現状なんで。僕はそれも十分…ま、手間暇かかりますけど、もっともっと使っていったほうがいいと思います。」	飯田さんインタビュー、古材の絵、ラケル家具、工房風景 	ラケルメジェール 代表取締役 飯田善郎 無垢材＝一本の木から、切り出したままの木材

飯田さんの話： 「デザインですね。廃材を使ってるけど、新しく、人が見て面白いっていうのを、作るようにはいつも心がけていますね。」 「新たに作り直して他のものにする・・・ストーリーがあるってことが、僕は大事だと思いますね。」	廃材を使って製作した家具 	
このように、国・企業・個人などが、持続可能な森林経営を支えるため、様々な努力をしています。 より良い未来のために、今、私たちに何が出来るでしょうか？ 普段、身の回りにあるモノの向こう側にある、森や木たちを想像してみましよう。 森を守ることは、世界を守ること。 木を選ぶことは、未来を選ぶこと。 選ぶのは、あなたです。	森、街、身の回りのもの	

はじめに

世界の森林は刻々と減少が続けています。その速さは1年で日本の面積の5分の1にも達します。この森林減少にはさまざまな原因がありますが、その一つに違法伐採の問題があります。違法伐採は木材生産国の森林の減少・劣化を引き起こすだけでなく、正当なコストを支払っていない違法伐採木材が国際市場で不当に安価で流通することにより、輸入国の森林にも大きな影響を与えています。

日本は石油や食料などの多くのものを世界に頼っていますが、木材も例外ではありません。私たちが普段何気なく使っている紙、身の回りにあるテーパーやイスなどの木材製品の多くは、世界中の森で切られた木からできています。その中には、もしかしたら違法に伐採された木材からできたものが含まれているかもしれません。

なかなか実感がわかないこの問題を理解していただき、自分には何ができるのだろうか?ということを考えていただくきっかけになればということで、映像教材「人と木〜世界の森林を守るために、今私たちにできること〜」を作成いたしました。この教材が世界でも大きな環境問題とされている森林の減少・

劣化問題を理解するための第一歩になれば幸いです。

環境省地球環境局環境保全対策課



目次

ビデオの構成.....	2
教材の活用の仕方.....	3
授業のすすめ方のヒント.....	5
＜パターン1 50分×2コマ／高等学校向け＞.....	5
＜パターン2 90分×1コマ／大学向け＞.....	9
応用編・上級編.....	13
ワークシート1「森林認証製品を調べる」.....	14
ワークシート2「ニュースレポート」.....	15
＜小学生～中学生向けに活用する場合＞.....	16
映像補足説明.....	19
第1章 森林の役割、森林と人間.....	19
1. 森林の多様な機能.....	19
2. 森林と人間.....	20
3. 世界の森林の現状.....	20
第2章 世界の森林と日本の木材利用.....	23
1. 森林減少・劣化の原因.....	23
2. 森林減少・劣化の影響.....	27
3. 日本の木材輸入の現状.....	30
第3章 私たちにできること.....	31
1. 日本政府の取り組み.....	31
2. 合法性・持続可能性が証明された木材.....	32
3. 映像のインタビュアーに登場する人たちの取り組み.....	34
参考リンク.....	36
参考文献.....	39
略語集.....	39

本教材は、環境省事業「平成21年度木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務」の一環として、財団法人地球・人間環境フォーラムが作成したものです。

ビデオの構成

人と木

～世界の森林を守るため、今私たちにできること～

第1章 森林の役割、森林と人間.....	7分21秒
①イントロダクション.....	
②森林の役割（モーション・グラフィック）.....	
③森林と人間（モーション・グラフィック）.....	
④世界の森林の現状.....	
第2章 世界の森林と日本の木材利用.....	4分20秒
①海外の森林減少・劣化の原因とその影響.....	
②日本の木材輸入の現状.....	
③現代の消費社会（モーション・グラフィック）.....	
第3章 私たちにできること.....	8分40秒
①日本政府の取り組み.....	
②合法性・持続可能性が証明された木材・紙製品.....	
③地域住民が適切に管理している木材.....	
④木材製品の修理・再生、古材・廃材利用.....	

教材の活用の仕方

本教材は、添付のDVD「人と木〜世界の森林を守るため、今私たちにできること〜」と並行して使用することを前提としています。

対象

- 高校生・大学生以上
- 小学校高学年以上（第1章のみなど部分的に使用、または補足説明を加えれば、小学生向け授業などでも使用できます）
- 学校の授業以外でも、環境問題に興味を持つ一般の方、企業の勉強会などでもご活用ください

学習のねらい

- 森林の持つ機能について理解する
- 世界で森林が減少・劣化していることを理解する
- 森林減少・劣化の原因を知る
- 違法伐採も森林減少・劣化の大きな原因の一つであることを理解する
- 森林減少・劣化による環境への影響などを考え、理解する
- 森林減少・劣化を食い止めるために何が行われているかを知る
- 持続可能な森林経営について知る
- 私たち個人にできることは何かを考え、行動にうつす

関連用語

森林減少・劣化	p.23-29
違法伐採問題	p.25-27
森林の機能	p.19、p.27-29
合法性・持続可能性	p.33-34
森林認証制度	p.33
気候変動	p.27
生物多様性	p.28

授業パターン案

授業を実施する際のパターンを3つ提案しています。授業を進める上での参考にしてください。

1. 50分授業×2コマ
2. 90分授業×1コマ
3. 小学生・中学生用

また、宿題に使えるようなワークシートも2種類用意しました。A4サイズに拡大コピーし、ご使用ください。

授業のすすめ方のヒント

くパターン1 50分×2コマ／高等学校向け>

■1日目

第1章 森林の役割、森林と人間

STEP1 森林の役割を考える

◎みんなで話してみよう		
質問	回答例	時間
森と聞いて、連想すること は？森から私たちが得て いる恵みは何か挙げてみ よう。	材料や燃料用の木材、木ノ実、山菜、 キノコ。水をためている。土砂崩れ の防止など	3分
身の回りで木からできて いる製品は何かがある？木 は何に使われている？	木造の家、家具（テーブル、机、イ ス、ベッド、棚）、食器（お椀・お 皿、お箸）、紙（コピー用紙、本、 マンガ、雑誌、新聞）、小物（フォ トフレーム、おもちゃ）、さまざま な道具（ほうきの柄）等	5分
▶▶ビデオ第1章を見る		
◎みんなで考えてみよう		
質問	回答例	時間
原始的な生活や化石燃料 を使う前の生活では木は 何に使われていたか？	燃料、建造物の素材、船、馬車、武 器、農耕作のための道具	5分

第2章 世界の森林と日本の木材利用

STEP2 森林が減少する原因

◎みんなで考えてみよう		
質問	回答例	時間
世界で森林が減少・劣化し	人口増加、異常気象、気候変動、森	5分

ている理由を考えてみよ う？ ブレイクストーリーミ に、正しい答えを言うとい うよりは、思いついたまま の理由を言ってみよう。	林火災など。
--	--------

▶▶ビデオの第2章を見る		
◎みんなで考えてみよう		
質問	回答例	時間
違法伐採と聞いて思い浮 かべるのはどんな行為？ どういうことを違法伐採 というのか、何が考えられ るか。または、まったく見 当がつかないか。通常「違 法」というのは、何を指す か 日本の木材自給率は何 割？この自給率は何を意 味しているか？	木を許可されていないのに、切って しまうこと。許可されているよりも 多くの量を切ってしまうこと、な ど。 約2割。北米、ヨーロッパ、東南ア ジア、オーストラリア、南米などが 主な輸入元。つまり、海外の森がな ければ、今の日本の私たちの暮らし は成り立たない。	5分

第3章 私たちにできること
STEP3 森林減少を食い止めるために何ができるのか？

▶▶ビデオ第3章を見る (宿題をするための準備としてビデオを見る)	9分
--------------------------------------	----

■次回までの宿題（下記より一つを選択）

1. 森林認証のラベルが付いたものや、森林保全に貢献しているとい う製品が身の回りにあるか調べてみよう。（ワークシート1参照）
--

☆ 実物をお店で見つけたら、写真を撮る。または、インターネットで検索してみる。

☆ どんなメーカーがあったか？その会社のウェブサイトを調べて、合法性、持続可能性が証明された製品についての説明や環境への取り組みについて、紹介していないか、調べてみる。

☆ 森林認証のラベルが付いているものや、合法性、持続可能性が証明された紙などの木材製品が、お店などで見つけられない場合は、ほかに環境配慮しているという文言や何かラベル・マークがないか調べる。また、お店の人に森林認証ラベルについて知っているか聞いてみる。

商品例：文具（例：ノート、鉛筆）、コピー用紙、封筒、カタログ（例：企業の環境・CSR 報告書など）、紙袋（例：衣料・宝飾メーカー：ZARA、デファイアニー）、衣服の表示ラベル（例：衣料メーカーGAP など）、ブラシの柄（例：BODY SHOP）、割り箸（どういう材からできているか）

2. 最近発行された新聞や雑誌から、世界や日本の森林、林業事情などについて扱った記事を調べてみよう。（ワークシート2 参照）

■2 日目		20 分
宿題の発表		
▶▶ ビデオの第 2 章をもう一度見る		5 分
◎みんなで考えてみよう		
質問	回答例	時間
森林が減少・劣化することによって、どんな影響があるか？	動物のすみかの消失、気候変動、洪水、地域住民の生活など。	10 分
私たちにできることは何？消費行動にどのように結び	日常的には、紙やノートを購入している。これらを購入するときに、	15 分

つけられる？ 日常どんな木材製品を購入しているか？ 将来的には？（例えば、一人暮らしで家具を購入、家を購入するなど）	これからは、森林認証製品を選ぶようにする。 木からできている家具などを買う際には、家具の値段やデザインなどだけでなく、木の樹種、出所や合法性、持続可能性が証明された木材であるかなども気にかけて、お店で質問をしてみる。 映像で紹介されていた森林減少・劣化の原因など、さまざまなテーマについて、より詳しく調べて、自分たちに何ができるかを考えてみる。
--	--

追加質問案

- Q. 木材資源は、持続的であるか？
回答例：石油などの化石資源や金・銅などの鉱物資源は、有限の資源だが、再生可能な資源である木材や魚などは再生のスピードを超えない範囲で利用すれば持続可能な利用ができる。
- Q. 「持続可能」または「サステナブル」という言葉を聞いたことがあるか？「持続可能」とはということ？「持続可能でない」はどういうこと？

回答例：英語ではサステナブル(sustainable)という。持続可能な社会、持続可能な開発などと使われることが多い。木、化石資源、魚などさまざまな地球資源に頼って成立している現在の社会。過剰に採取してしまふと、消費とのバランスがとれずに、資源は枯渇してしまふ可能性もある。将来にわたって、文明の利器を活用した人間の営みが継続できるかどうかということ。

くパターン2 90分×1コマ／大学向け>

第1章 森林の役割、森林と人間
STEP 1 森林の役割を考える

◎みんなで話してみよう			
質問	回答例	時間	
身の回りで木からできている製品は何がある？木は何に使われている？	木造の家、家具（テーブル、机、イス、ベッド、棚）、食器（お碗・お皿、お箸）、紙（コピー用紙、本、マンガ、雑誌、新聞）、小物（フォトフレーム、おもちゃ）、さまざまな道具（ほうきの柄）等	5分	
▶▶ビデオ第1章を見る			
◎みんなで考えてみよう			
質問	回答例	時間	
原始的な生活や化石燃料を使う前の生活では木は何に使われていたか？	燃料、建造物の素材、船、馬車、武器、農耕作のための道具	5分	

第2章 世界の森林と日本の木材利用
STEP 2 森林が減少する原因

◎みんなで考えてみよう			
質問	回答例	時間	
世界で森林が減少・劣化している理由を考えてみよう？ブレインストーミング的に、正しい答えを言うというよりは、思いついたままの理由を言ってみよう。	人口増加、異常気象、気候変動、森林火災等。	10分	
▶▶ビデオの第2章を見る			
◎みんなで考えてみよう			

質問	回答例	時間
違法伐採と聞いて思い浮かべるのはどんな行為？どういふことを違法伐採というのか、何が考えられるか。または、まったく見当がつかないか。通常「違法」というのは、何を指すか。	木を許可されていないのに、切ってしまうこと。許可されているよりも多くの量を切ってしまうこと、等。	5分
森林が減少・劣化することによって、どんな影響があるか？	動物のすみかの消失、気候変動、洪水、地域住民の生活等。	10分
「持続可能」または「サステナブル」という言葉を聞いたことがあるか？「持続可能」とはどういふこと？「持続可能でない」はどういふこと？	英語ではサステナブル(sustainable)という。持続可能な社会、持続可能な開発などと使われることが多い。木、化石資源、魚などさまざまな地球資源に頼って成立している現在の社会。過剰に採取してしまうと、消費とのバランスがとれずに、資源は枯渇してしまう可能性もある。将来にわたって、文明の利器を活用した人間の営みが継続できるかどうかということ。	10分
日本の木材自給率は何割？この自給率は何を意味しているか？	約2割。北米、ヨーロッパ、東南アジア、オーストラリア、南米などが主な輸入元。つまり、海外の森がなければ、今の日本の私たちの暮らしは成り立たない。	5分

第3章 私たちにできること

STEP 3 森林減少を食い止めるために何ができるのか？

▶▶ ビデオ第3章を見る			9分
◎みんなで考えてみよう			
質問	回答例	時間	
森林認証という制度を知っていたか？いくつあったロゴマークを見たことがあったか？あったこととどこで？	映像にもあったようにノートなど文具に使用されているものもある。また、企業の環境・CSR報告書などでも使用されている。 (おそらく大半が見たことないと思うことになって、ワークシート1にあるように探してきてもらうという宿題形式にすることも検討)	5分	
私たちにできることは何？消費行動にどのような結びつけられる？日常生活で木材製品を購入しているか？将来的には？(例えば、一人暮らしで家具を購入、家具を購入する等)	日常的には、紙やノートを購入している。これらを購入するときに、これからは、森林認証製品を選ぶようにする。 木からできている家具などを買う際には、家具の値段やデザインなどだけでなく、木の樹種、出所や合法性、持続可能性が証明された木材かであるかなども気にかけて、お店で質問をしてみる。 映像で紹介されていた森林減少の原因など、さまざまなテーマについて、より詳しく調べて、自分たちに何ができるかを考えてみる。	10分	

■宿題 (案) (下記より一つを選択)

1. 森林認証のラベルが付いたものや、合法性、持続可能性が証明された、森林保全に貢献している製品が身の回りにあるか調べてみよう。(ワークシート1参照)
- ☆ 実物をお店で見つけたら、写真を撮る。または、インターネットで検索してみる。
- ☆ どんなメーカーがあったか？その会社のウェブサイトを見て、合法性、持続可能性が証明された製品についての説明や環境への取り組みについて、紹介していないか、調べてみる。
- ☆ 森林認証のラベルが付いたものや、合法性、持続可能性が証明された紙などの木材製品が、お店などで見つけられない場合は、ほかに環境配慮しているという文言や何かラベル・マークがないか調べる。また、お店の人に森林認証ラベルなどについて知っているか聞いてみる。
- 商品例：文具 (例：ノート、鉛筆)、コピー用紙、封筒、カタログ (例：企業の環境・CSR報告書など)、紙袋 (例：衣料・宝飾メーカー：ZARA、ティファニー)、衣服の表示ラベル (例：衣料メーカーGAP等)、ブラシの柄 (例：BODY SHOP)、割り箸 (どのような材からできているか)
2. 最近発行された新聞や雑誌から、世界や日本の森林、林業事情などについて扱った記事を調べてみよう。(ワークシート2参照)

応用編・上級編

- 教材では、少ししか触れていない点について、より深く調べてみる。
- 現代でも燃料のために森林を伐採して生活している人たちの暮らし
 - 違法伐採の背景にある経済的要因、政治・体制的要因、法制度的要因などを調べてみる。
 - 気候変動と森林との関係
 - 生物多様性と森林との関係
 - EU、アメリカ、ヨーロッパ諸国などの違法伐採対策について調査
 - 今回紹介した3つの森林認証制度以外の世界の森林認証制度を調査
 - 世界や日本における森林認証された森林はどのくらいあるのか。
- 等

ワークシート1「森林認証製品を調べる」

クラス・名前	
作成日	
製品の種類と 森林認証の種類 (FSC/PEFC/SGEC)	① ② ③
見つけた場所 (店・URL 等)	
製造している会社名	
原産国は	
気づいたこと	●森林認証や合法性、持続可能性が証明された製品を探すのは簡単だったか？大変だったか？探してみた感想。 ●その他

ワークシート2 「ニュースレポート」

最近発行された新聞や雑誌、またはインターネットから、世界や日本の森林、林業事情などについて扱った記事を調べてみよう。

クラス・名前	
作成日	
出典 (媒体の名前と日付)	
記事のテーマ (該当するものに○)	世界の森林／日本の森林／林業について／ 木材流通・貿易について／国産材について／ その他_____
記事の概要 (実際の記事は裏面に貼る)	
どこの国の話題か	
この記事と関連していると思われる環境問題は？	
気づいたこと	

＜小学生～中学生向けに活用する場合＞

第1章の大半は、アニメーションのようなもので、子供でも楽しめる程度は理解できる内容です。

第2章、第3章は小学生には、難しい内容ですが、中学生であれば、あの程度の理解は可能と思われます。

授業前準備

宿題として、各自の家に、木からできている物が何があるか、リストを作ってきてもらい、木材製品が身近にあることを気づいてもらう。
例：床、壁、テーブル、キッチンカウンター、棚、ベッド、ソファの枠、お箸、紙、本、マンガ、えんぴつ等

第1章 森林の役割、森林と人間
STEP 1 森林の役割を考える

▶▶ビデオ第1章を見る（8分）	
◎みんなで話してみよう 目的：森と自分とのつながりを意識してもらう	
質問	回答例
「最初に出てきた動物は覚えてい るかな？」など出てきた動物、何 が何に食べられたかなどをたずね る。	リス、トラのような大きい動物、小 さい虫等
森に行った時の体験や近所にある 森について聞いてみる。最近、森 に行ったことはある？家の近くに 森はある？どんな森（大きい？小 さい？）？どんな木が植わってい た？森の雰囲気はどんな感じ？ 森には何がある？どんなものが生 きている？	
	さまざまな生物、木、花、土

昔の人（または映像の中では）、木を何に使っていた？	燃料、建造物の素材、船、馬車、武器、農耕作のための道具
森と聞いて、連想することは？森から私たちが得ている恵みは何か挙げてみよう。	材料や燃料用の木材、木ノ実、山菜、キノコ。水をためている。土砂崩れの防止等
宿題の発表 教室や学校の中ではどうか？木からできているものは、多かったです？少なかった？	家で探してきた、木からできているものを発表
地球上で森林が占める割合は陸地面積の何パーセント？	約 30%

第2章 世界の森林と日本の木材利用
STEP 2 森林が減少する原因

▶▶ ビデオの第2章を見る（5分）	
◎ みんなで考えてみよう	
質問	回答例
世界で森林が減少・劣化している理由を考えてみよう？ブレインストーミング的に、正しい答えを言うというよりは、思いついたままの理由を言ってもらおう。	人口増加、異常気象、気候変動、森林火災等。

第3章 私たちにできること
STEP 3 森林減少を食い止めるために何ができるのか？

▶▶ ビデオ第3章を見る（9分）	
◎ みんなで話してみよう	
質問	回答例
森林認証のラベルが付いたものを見たことがあるか？あるとすれば、いつ、どこで？	文具（例：ノート、鉛筆）、コピー用紙、封筒、カタログ（例：企業の環境・CSR 報告書等）、紙袋（例：

(ワークシート1 参照)	衣料・宝飾メーカー：ZARA、ティファニー）、衣服の表示ラベル（例：衣料メーカーGAP 等）、ブラシの柄（例：BODY SHOP）、割り箸（どいう材からできているか） 日常的には、紙やノートを購入している。これらを購入するときに、これからは、森林認証製品を選ぶようにする。 親にどんなものを買うようにしているか聞いてみる。
私たちにできることは何？消費行動にどのように結びつけられる？	

調べてみる

ノートでも、家具でも何か身の回りの木材製品の製造メーカーがわかれば、メーカーに問い合わせ、その原料が何であるか（樹種等）、どこから来たか（原産国）、合法または持続可能な木材か、などを問い合わせ、調べてみる。どこまで調べることができるだろうか？

映像補足説明

第1章 森林の役割、森林と人間

1. 森林の多様な機能¹

森林は、樹木の根により土壌を押さえ土砂や土壌の崩壊・流出を防止したり、樹木や落葉、森林土壌の働きにより降水を効果的に地中に浸透させて長期にわたり貯留・流下させる働きを持つ（洪水調節、洪水緩和）。また、周辺地域の気温の変化を和らげ、適宜な湿度を保つとともに、大気を浄化したり、騒音、風、雪、霧などを防ぐフィルター機能も有するなど、私たちの身近な暮らしに密接したさまざまな機能を有している。

木材生産の場でもあり、キノコや木の実、山菜などの「山の幸」も産出する。野生生物の生息地としても重要である。森林は、また人類の文明・文化の発達に大きな役割を果たしてきた。

森林の表土土壌は、地中の小動物の活動や根の腐朽などにより、さまざまな隙間が形成され、水が浸透しやすい。このため、降雨時には地表を流れ、短時間で河川に到達する水の量は少なくなり、洪水が防止される。また、地中に張り巡らされた樹木の根や林床に繁茂する草本が土砂の崩壊や土壌の流出が防止される。

また、森林は雨水を地中に浸透させ、徐々に河川に送り出すので、河川の流量を安定化させる働きがある。また、雨水に含まれている塵や窒素、リンを濾過・吸収し水質を浄化する。このように森林は洪水の緩和と水質の浄化を通じて水資源を涵養する機能がある。森林が「緑のダム」などと喩えられる所以である。

¹環境省「平成15年度 森林生態系の保全管理に係る調査業務報告書」

2. 森林と人間

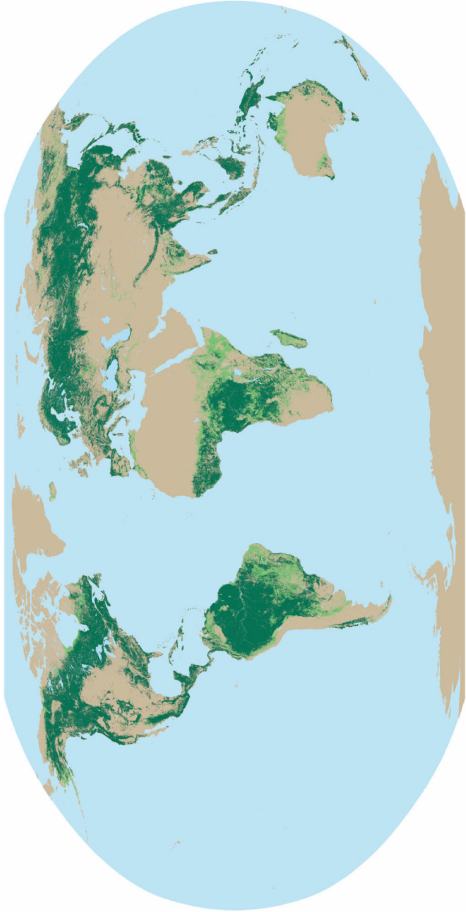
文明の発展に森林は欠かせない。まだ石油などの化石燃料が発見される前、木が主要な燃料の元であった。住居も木材から作られていた。文明が発展し、人間の生活を維持するために森にある木々は伐採されていった。ローマ文明など、古代文明が崩壊した要因の一つが、森林の再生能力を超えた形で利用したこと、森林が失われてしまったことだともいわれている。

森から人間が得ているのは、木材や食料となるキノコや木の実などの物質だけではない。現代社会においては私たちに心のうをおいを与え、重要な教育・レクリエーションの場でもある。さらに森林は地球環境の重要な構成要素であり、地球規模での気候の安定化への寄与は計り知れない。

3. 世界の森林の現状

世界の森林面積は約 39.5 億ヘクタールで、全陸地面積の約 30.2%を占めている。

世界の森林分布

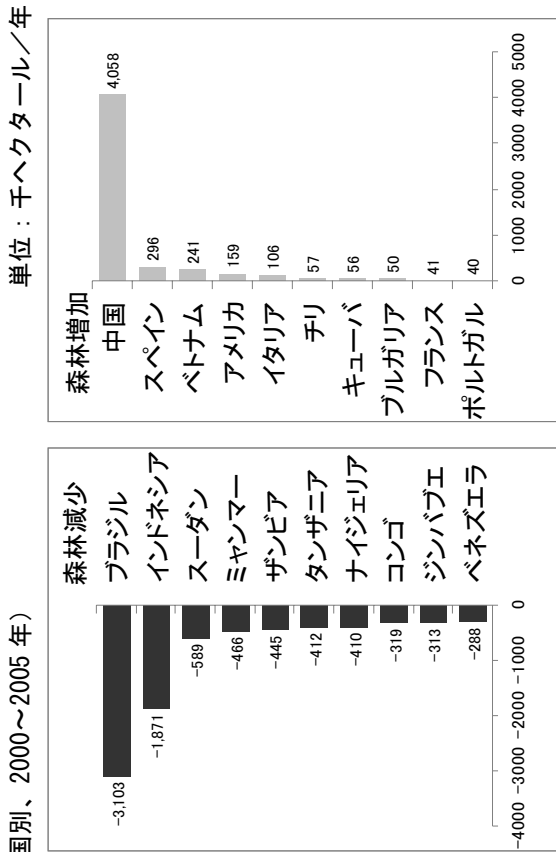


注：色の濃い部分が森林 出典：国連食糧農業機関「森林資源評価 2005」

立木の密度が低下するなどの劣化した森林も大きな問題となっている。

一方、森林増加の大きい国では、中国1カ国が抜き出ている。中国は砂漠化、洪水、土砂崩れ、渇水の頻発を背景に、急激に緑化を進めている。中国を除けば、森林減少の進行は、なお著しいものとなっていることが分かる。

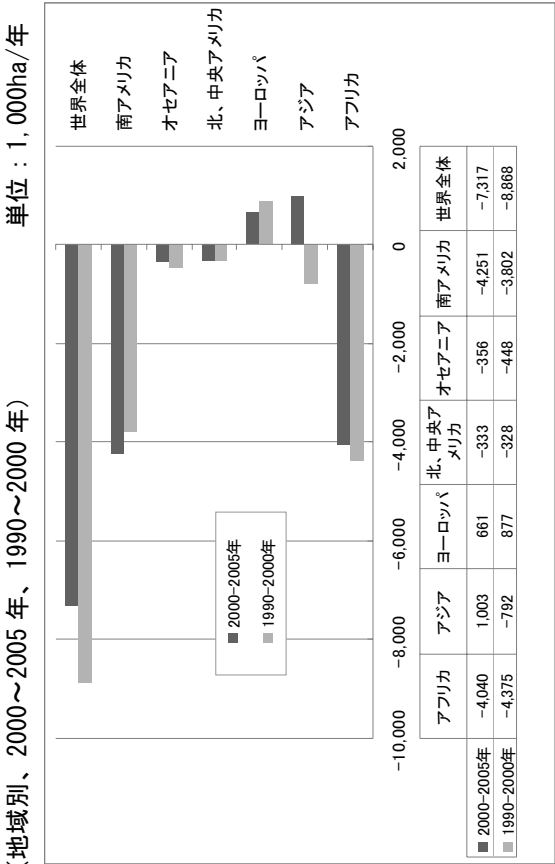
森林面積の変化の大きな国 10カ国
(国別、2000～2005年)



資料：FAO「森林資源評価 2005」

しかし、世界の森林は減少を続けており、2000年から2005年までの減少を平均すると毎年731.7万ヘクタールが減少していることになる。これは、日本の国土面積(3,779.3万ヘクタール=377,930km²)の約5分の1、ほぼ北海道本土の面積(779,818.7万ヘクタール=77,981.87km²)と同じである。

世界の森林面積の年平均の増減



資料：FAO「森林資源評価 2005」

現在、世界で最も森林減少が著しいのは、ブラジル、インドネシア、そしてアフリカの熱帯諸国。南アメリカ、東南アジア、アフリカなどの熱帯の国々の多くは元来、熱帯気候と豊富な降雨量により、国土の大半を森林が占めていたが、20世紀に入ってから急速に森林が失われた。例えばフィリピンでは19世紀初頭には国土の70%以上を占めた森林面積が、2001年には19%となり、東南アジアで最も森林が少ない国になってしまった。また森林面積の減少だけでなく、伐採により

第2章 世界の森林と日本の木材利用

1. 森林減少・劣化の原因

世界の森林では、刻々と減少・劣化が進んでいる。この森林減少・劣化の背景にはさまざまな原因がある。

- 森林減少：森林以外の目的に土地の利用が変化すること、または、長年に渡って樹冠率が10%以下（FAOの定義）になってしまふことを指す。
- 森林劣化：森林の面積が減少することではなく、森林の「質」が劣化すること。

1) 農地等への転用

世界の人口増加に伴う食料需用の増加により、東南アジアでは森林を伐採してアブラヤシの農園（プランテーション）へ、アマゾンでは森林をサトウキビ農園や牧場へ転換する土地利用の転換が増加しています。

パームオイルの例

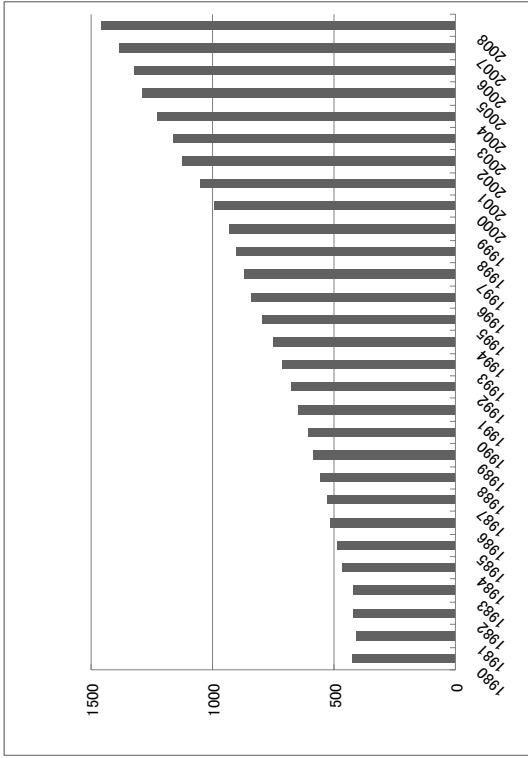
パームオイルは、私たちが普段食べている食料や洗剤などに多く含まれているが、その原料であるアブラヤシ農園の面積は、世界において増加の一途をたどっている。

森林を伐採しても、その後にもまた植物であるアブラヤシを植えるのであれば、問題ないのではと考えるかもしれないが、一つの種類の樹種しか植わっていないプランテーションと、多種多様な樹種などが植わっている天然林では、生息できる動植物の種類も数にも差があります。また木が貯蔵する炭素の量を考えても、もともとの森林が樹齢何十年というような木で構成されている場合

に蓄積している炭素の量と、植えられてまだ数年というアブラヤシが蓄積できる炭素の量では、著しい差がある。このように森林を農地に転換することで、気候変動（温暖化など）にも影響を及ぼしている。

アブラヤシ作付面積の推移（世界全体）

単位：万ヘクタール



資料：FAOSTAT を元に作成

2) 燃料用木材の過剰な採取

開発途上国においては、日常生活で、調理や室内を暖める燃料として薪や炭を利用しており、そのために森林が伐採されている。世界の木材需要の約半分は燃料としての利用である。

日本では、少子化が問題となり、人口が減っているが、世界的には人口は増加傾向にあり、それとともに森林の伐採を加速させている。

3) 非伝統的な焼畑農業の増加

焼畑農業は、森林を伐採して焼き払い、1年から数年間農地として利用した後に、自然の回復力で森林に戻すというサイクルを繰り返す伝統的な農業の方法。近年、人口の増加などを背景に、焼畑のサイクルが短縮し森林が回復しないうちに再び焼いて土地が劣化し、森林が再生しなくなる、非伝統的な焼畑が問題となっている。

4) 森林火災

落雷などによる自然発火のほか、焼畑農業や農地開発のための火入れ、焚き火やタバコなどの不始末、放火など人為的な原因によるものもある。また森林火災が発生すると消火は困難で、大規模に森林が焼失する例もある。伐採や道路開設により森林が乾燥していることが、森林火災が広がる原因ともなっている。

5) 違法伐採問題

森林を保全するためには、持続可能な森林経営が不可欠である。それを阻害する要因として違法伐採問題が指摘されている。違法伐採された木材の多くは、丸太または木材製品となって地球規模で取引されている。

①違法伐採とは

違法伐採とは、それぞれの国の法律に反して行われる伐採のこと。つまり、木材が森林から伐採され、消費者の手元に届くまでの過程において、一つでも法律に違反する行為があれば、その材は違法伐採となる。

例)

- 政府などが定めた森林計画等で決められた伐採量、指定樹種・径級（木の太さ）、伐採方法等を守らない伐採

- 所有権、伐採権がない森林を伐採するいわゆる盗伐
- 保護地域等を定めた法令を守らない伐採 等

このほか、昔から森林に依存して生活している先住民等の権利を尊重せずに伐採してしまう、伐採に従事する労働者の安全を考慮しないなどの問題点や、正当な関税などが払われないなど税務上の観点からの問題点が指摘される場合もある。

②違法伐採の割合

世界で流通している木材の中で、違法伐採された木材の量がどの程度あるのかについては、1999年に行われたイギリスとインドネシアとの共同研究では、インドネシアでの伐採の50%が違法ではないか、また2000年に実施された環境NGOの調査では、ロシアでの伐採の20%が違法ではないかと推測されている。現在も違法に伐採された木材は世界で流通している。

③違法伐採の影響

違法伐採は、木材を生産する国における持続可能な森林経営を阻害し、森林減少・劣化をもたらしている。

また、正当なコストを支払っていない違法伐採木材・木材製品が国際市場で不当に安価で流通することにより、輸入国の持続可能な森林経営を阻害している。

例えば、適切に管理された場合にかかる伐採コストとしては、

- 新たに植林する費用
- 森林を育て、管理する費用
- そこで働く人への対価
- 安全に木材を運搬するための諸経費
- 正規の流通ルートを通る際にかかる諸経費・税金

は、森林が農地など他の用途に転用され、森林が減少・劣化したことによるものとされている。

地球が温暖化すると、海水面が上昇することにより、世界の沿岸地域が水没し、自然災害の頻発、伝染病の蔓延など、著しい被害が発生するともいわれている。

- 1. 森林を造成し、炭素の吸収を増加させること
- 2. 森林減少・劣化を抑制し、炭素の排出を抑制すること

この二つは気候変動の影響を緩和する重要な役割を果たす。

2) 生物多様性への影響

森林生態系には、高木や低木、下草など多くの植物が生育している。さらに、その植物の実を餌としたり、木の幹や土の中などを住み処にしている動物や昆虫が多く生息している。このように、森林は生物多様性に富んだ貴重な空間である。

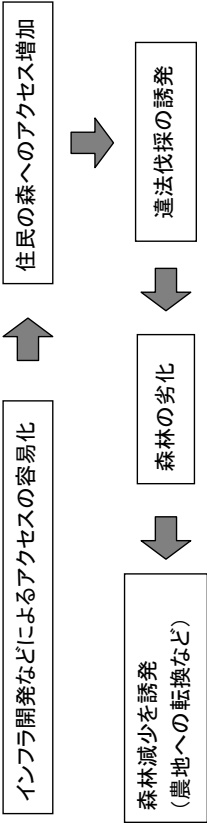
森林の伐採や植生の断片化などにより、こうした生物多様性は大きな影響を受けることになる。例えば、もともと広大な森林だったところを、断片的に伐採していけば、最終的に断片化した森、つまり森がつながらない、パッチワーク的に存在する森になってしまう。そうすると、そこに生息するほ乳類などは、行動圏が限定され、近隣の森林に生息する他集団との交流がほとんどないことがわかっていく。このことは繁殖の機会を失い、個体数の減少につながることを意味している。

また、ミツバチのように植物の花の蜜を餌として花粉を運ぶ昆虫は、森林伐採によって生息数・種類が大きく影響を受ける。一度減少すると長期にわたって回復しない。さらに、キツツキの個体

などが考えられる。それが、違法に伐採された場合、上記のようなコストが最終的な製品に付加されないため、正当なコストを支払った場合に比べて、安く流通され、市場価格を下げた結果につながる。ある報告²によると違法伐採された木材・木材製品は世界の木材流通価格を7～16%も押し下げていると報告している。

④違法伐採と森林減少との関係

インフラ開発や商業伐採などにより、森林に対する住民等のアクセスが増加することにより、違法伐採が誘発される。違法伐採によって劣化した、森林は、生態学的な健全性や経済的価値が低下し、農地転用、森林火災等により、減少する危険にさらされることになる。一方、持続可能な森林経営が行われる場合には、伐採許可を得た者が森林の回復（更新）に責任を持つため、森林が減少する可能性が著しく低下する。



2. 森林減少・劣化の影響

1) 気候変動への影響

樹木は光合成によって二酸化炭素を吸収し、炭素を樹体内に蓄積している。さらに、森林には、樹体内のほか土壌中にも、大量の炭素が貯留されている。

2007年に公表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次評価報告書によると、世界の温室効果ガス排出量の約20%

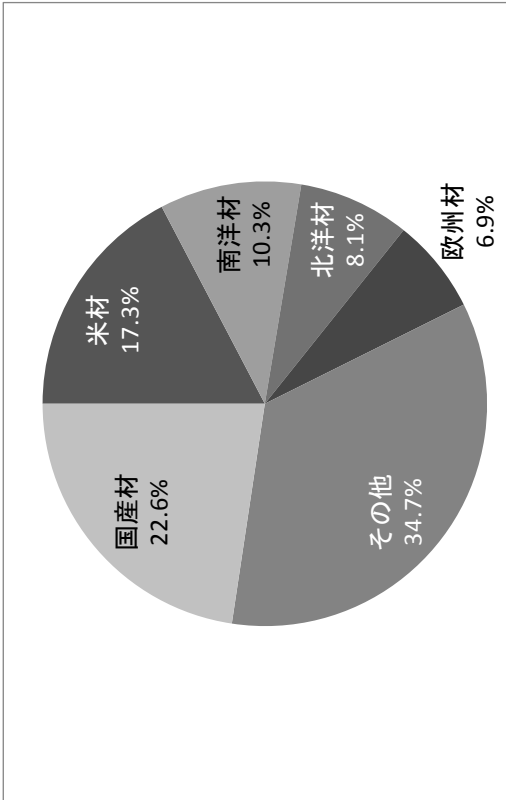
² 全米林産物製紙協会（AF&PA, 2004年）

3. 日本の木材輸入の現状

私たちは日常生活の中で、住宅、紙、家具など様々な形で木材を利用している。それらの木材の多くは、世界中の森林で生産されており、日本は大量の木材を世界中から輸入している。

2007年には約6,300万m³(丸太換算、財務省「貿易統計」)、日本の需要の約8割の木材が輸入された。このため、日本で生活する私たちは、世界の森林に対し、木材の消費者としての責任を負っている。

日本の木材需要量（2007年）



米材：アメリカ、カナダ
南洋材：マレーシア、インドネシアなど
北洋材：ロシア
欧州材：ヨーロッパ
その他：オーストラリア、チリ、ニュージーランド、中国など

出典：知ってほしい森と木のこと 2009 より

密度や多様性は老齢木や枯損立木の密度に大きく影響を受けることも明らかにされている。

このように、森林減少は生物多様性の損失にもつながっている。

3) 森林減少による地域への影響

森林には、地域にもたらす公益的機能がある。森林が減少するということは、そのような森林のもたらす恵みを享受できなくなることにもつながる。

①土壌浸食防止・水源涵養機能の劣化

森林を構成する樹木の地下には、樹体を支えるため、根が土壌をしつかりとつかんでいる。また、根がつかむ土壌には、樹木からの落葉、落枝など有機物が堆積しており、それらが昆虫や微生物などにより、分解されている。この昆虫などの働きにより、森林内の土壌は、まるでスポンジのように隙間が沢山空いている。

こうした根や土壌の働きによって得られる、土砂の流出・崩壊を防止する役割、水質保全、洪水・渇水を防止する役割が、森林減少により劣化してしまう。

②地域文化・住民生活の破壊

森林は地域の住民に、薪、木の実、樹液、ツタ、薬草、きのこ、動物などを提供し、水源や土壌を保全するという大きな役割を果たしている。世界の多くの人々、とりわけ先住民にとって、森林は食料貯蔵庫であり、生活の場として欠かせないものである。

さらに森林は地域の文化や宗教も育んできている。こうした森林の伝統的な利用に関する慣習的な権利は、ときに無視されてしまいうこともある。森林の破壊や、大規模な植林事業により、地域住民の生活が破壊されたり、変化を強いられることもある。

第3章 私たちにできること

1. 日本政府の取り組み

1) グリーン購入法

政府は、2001年4月より、国等の公的機関が率先して、環境への負荷が出来るだけ少ないものを選んで購入することを定めたグリーン購入法³を施行した。2006年4月からは、違法伐採対策として、木材・木材製品については、「合法性」、「持続可能性」が証明されたものを購入しなければならない措置を新たに導入した。

＜対象品目＞

- 紙類（例：フォーム用紙、印刷用紙等）
- 文具類（例：事務用封筒、ノート等）
- オフィス家具等（例：いす、机、棚等）
- ベッドフレーム
- 公共工事資材（例：製材、集成材、合板、単板積層材等）

グリーン購入法における合法性や持続可能性を証明する方法の詳細は、P.34「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」参照。

2) 国際的な取り組み

①国際対話への参画

国連森林フォーラム(United Nations Forum on Forest=UNFF)世界の森林の持続可能な経営の推進を目的として2001年に設けられた国連の機関。各国政府、国際機関、NGOなどが参加し、世界の森林問題について、そしてそれを解決するための方策につ

³正式名称＝国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）

いて協議する場。最近では、2009年4月に「第8回国連森林フォーラム（UNFF8）」が開催され、120ヶ国以上の国連加盟国等が出席した。

関連 URL：外務省 HP＞国連における森林問題への取組＞
http://www.mofa.go.jp/mofaj/Gaiko/kankyo/bunya/shinrin_un.html

②国際協力⁴

二国間協力

独立行政法人国際協力機構（JICA）を通じて、専門家の派遣、研修員の受け入れ及びこれらと機材の供与とを有機的に組み合わせて実施する「技術協力プロジェクト」等を実施している。

多国間協力

多国間協力においては、国際熱帯木材機関（ITTO）に対して、持続可能な熱帯林経営の推進や違法伐採対策のための普及・啓発と人材育成の実施に必要な経費等を拠出している。ITTOの本部は横浜に位置し、日本に本部を置く唯一の国連条約機関。

また、国連食糧農業機関（FAO）に対しては、加盟国としての分担金及び信託基金によるプロジェクトへの任意拠出、人材派遣等の支援を行っている。

2. 合法性・持続可能性が証明された木材

木材の合法性や持続可能性を確認する方法には、下記のようないくつかの方法がある。

⁴ 林業白書より http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/20hakusho_h/all/h17.html

1) 森林認証制度

森林が適切に管理されていることを第三者機関が認証し、当該森林から産出された木材を区分することにより、消費者が選択的にこれら木材を購入することができるようにする民間主体の制度。

適切に管理・運営された森林から出てきた木材に証明書などをつけて流通させ、森林から消費者の手元までのトレーサビリティを確保する。このような木材製品には、各認証機関のラベルが付いている。

国際的な認証制度としては、FSC (Forest Stewardship Council=森林管理協議会) と PEFC (Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes=PEFC 森林認証プログラム) があり、日本独自の認証制度としては、SGEC (Sustainable Green Ecosystem Council=『緑の循環』認証会議) がある。



© 1996 Forest Stewardship Council A.C.



PEFC/01-44-02
持続可能な森林管理の促進
www.pefc.org



『緑の循環』認証会議

2) 木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン⁵

木材・木材製品の「合法性」、「持続可能性」の確認に際しては、林野庁が作成した「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」に準拠することとされており、以下の3つの方法が提示されている。

①森林認証を活用する方法

森林認証の認証マークにより証明を確認する方法。
(詳細については、上記「森林認証制度」参照)

②業界団体の認定を受けた事業者が証明する方法

木材にまつわる各業界団体が自主的な行動規範を作成した上で、個別の事業者を認定し、認定を受けた事業者が「合法性等証明書」を次の段階の業者に渡すことにより、証明の連鎖を形成するもの。

③事業者独自の取組により証明する方法

個別の事業者が独自に伐採から入荷に至るまでの流通経路等を把握し、証明する方法。

グリーン購入法では、地方公共団体等の公的機関、民間事業者、国民に対してもグリーン購入に努めることを求めている。国等以外にもグリーン購入の取組みが広がることが期待されている。

3. 映像のインタビューに登場する人たちの取り組み

高見林業

<http://www002.upp.so-net.ne.jp/wood-kun/top.htm>

栃木県の鹿沼市で山林の植え付けなどの受託管理から、間伐などの伐採受託、作業道の開設、一般製材、木工品の製造販売を行っている会社。SGEC 認証を 2005 年より受けている。約 260ha の山林を、管理マニュアル及び動植物保護マニュアルにより森林認証森林として、管理している。

木童 (こどう)

<http://www.kodoh.co.jp/index2.html>

兵庫県神戸市と東京に事務所を持ち、国産材を使った床や壁の製作から家づくりのコーディネートなどを行っている会社。

⁵ 林野庁のページ <http://www.rinya.maff.go.jp/policy2/fhou/gaidoraintop2.html>

イスタナテラス

<http://www.terrace-inc.co.jp/>
東京に事務所を置くインドネシアなどのチーク材を使ってガーデン家具を作る会社。

コミュニティ林とは

地域の住民が共同で、持続可能な森林経営を実施すること。通常、共同で使用している土地において、地元の住民が森林、森林から出る産物をどのように管理、利用するかなどを計画し、管理・運営する。また、地域の住民たち主体で森林を管理・運営しているため、森林から得られる社会・経済的利益の大部分が地域住民に還元される。

ラケルメジェール

<http://www.raquelmeller.com/index.html>
東京に事務所を置く内装や家具製作をする会社。店舗や家を解体したときに出る廃材を積極的に利用している。

参考リンク

森林や木材に関する情報が得られるホームページの紹介

政府機関

環境省	www.env.go.jp/earth/shimrin/index_1.html ホーム＞地球環境・国際環境協力＞森林・砂漠化対策＞森林対策
林野庁	www.rinya.maff.go.jp 民有林行政と国有林野事業をおこなう農林水産省の外局
外務省	www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/index.html ホーム＞外交政策＞地球環境 世界的な森林問題への取り組みについての紹介
国際協力機構 (JICA)	www.jica.go.jp ホーム＞事業案内 課題別取り組み＞自然環境保全 森林に関する取り組みなどの事例紹介

国際機関

国連食糧農業機関 (FAO)	www.fao.org (英語) 加盟国、他の国際機関、衛星等からの情報をもとに世界の食料生産・農林水産業の状況を常時把握、監視し、その結果を提供
FAO 日本事務所	www.fao.or.jp (日本語) FAO についての情報が一部日本語で見られる
FAOSTAT	faostat.fao.org (英語) さまざまな森林や資源に関する統計データ
FAO キッズ	www.fao.or.jp/kids/jp/index (日本語) 子供向けの FAO についての説明
国際熱帯木材機関 (ITTO)	www.itto.int/ja/ (日本語サイトあり) 熱帯林資源の保全や持続的経営、及び利用等を促進するための国際機関

みんなの森 データ編	www.minnanomori.com/index.html 国土緑化推進機構のページ。森のはたらき、里山の意味、木材の利用など、細かく紹介。
合法木材・森林認証機関のサイト	
合法木材ナビ	www.goho-wood.jp
FSC ジャパン	www.forsta.or.jp/fsc
PEFC アジアプロモーションズ	www.pefcasia.org/japan
SGEC 『緑の循環』 認証会議	www.sgec-eco.org

森林・木材・環境教育関連のサイト	www.gef.or.jp 森林・生物多様性＞世界の森林と持続可能な森林管理 データは古いが森林に関する基本情報掲載
フェアウッド・パートナーズ	www.fairwood.jp 地球・人間環境フォーラムと FoE Japan が共同で実施しているプロジェクト 世界の森林・木材 に各国の森林の情報や森林認証制度についての説明
森林の見える木材ガイド	www.fairwood.jp/woodguide 世界の合計 100 以上の樹種について、環境性能などを調べることができるフェアウッド・パートナーズ製作のサイト
国際環境 NGO FoE Japan	www.foejapan.org 地球規模での環境問題に取り組む国際環境 NGO。フェアウッド・パートナーズを地球・人間環境フォーラムと実施している
授業に活かす環境教育	www.env.go.jp/policy/nerai/EnvEdu/inSchool.html 環境省のページ。小学校と中学校での発達の段階に応じた環境教育の「ねらい」(目標)、環境分野別の学習内容、その内容を学ぶべき教科についての調査研究がまとめられている
こども森林館	www.rinya.maff.go.jp/kids/index.html 林野庁のページ。森林のはたらきについての説明、質問、クイズなど紹介。
(財)日本木材総合情報センター	www.jawic.or.jp/ 木の種類や加工などの説明。
森の質問箱	www.jawic.or.jp/ 日本林業森林技術協会のページ。小中学生向けの疑問に答えるコーナー。

参考文献

＜日本語＞

- 林業白書
- 環境白書
- パンフレット「世界の森林を守るために」（発行：環境省）
- 平成19年度 違法伐採による環境影響調査業務報告書（環境省事業・地球・人間環境フォーラム）
- フェアウッド 森林を破壊しない木材調達（発行：国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム）

＜英語＞

- FAO, Global Forest Resources Assessment 2005(GRA 2005)

略語集

略語	日本語	英語
FAO	国連食糧農業機関	Food and Agriculture Organization of the United Nations
FRA	世界森林資源評価	Global Forest Resources Assessment
FSC	森林管理協議会	Forest Stewardship Council
GRA	森林資源評価	Global Forest Resources Assessment
ITTO	国際熱帯木材機関	International Tropical Timber Organization
JICA	国際協力機構	Japan International Cooperation Agency
PEFC	PEFC 森林認証プログラム	Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes
SGEC	『緑の循環』認証会議	Sustainable Green Ecosystem Council

映像制作

構成・脚本： 三上雄己／木村輝一郎／根津重矢子／坂本有希
演出・撮影・編集： 三上雄己／木村輝一郎
アニメーション・カバードザイン： 池山正倫
音楽： 渡辺剛
整音： 鷺欣也
ナレーション： 鈴木万由香

取材協力： AREA tokyo、SEMPRE、イスタナテラス、木童、高見林業、ラケルメジェール
映像提供： BROC、Dark Lake Productions、Gekko Studio、赤川修也
写真提供： 足立直樹、ウータン・森と生活を考える会、国際環境 NGO FoE Japan、国際協力機構、国連広報センター、木童、ジュネテック、地球・人間環境フォーラム、熱帯林行動ネットワーク、ラケルメジェール
資料提供： PEFC アジアプロモーションズ、地球・人間環境フォーラム
協力： Music Brains、田中治彦、ピークス

この教材を製作するにあたり、以下の検討委員の協力を得ました。
(五十音順・敬称略)

- 川嶋直 (キープ協会常務理事、立教大学ESD 研究センターCSR チーム主幹)
- 小池菜採 (アジア太平洋資料センタービデオ担当)
- 五嶋正治 (東海大学文学部広報メディア学科准教授)
- 高橋康夫 (新宿区立市谷小学校校長、元全国小中学校環境教育研究会会長)
- 仲野万里子 (EARTH VISION 地球環境映像祭事務局次長)
- 西あい (開発教育協会事務局次長)

特別協力： フェアウッド・パートナーズ／abovo

2010 年 3 月 発行

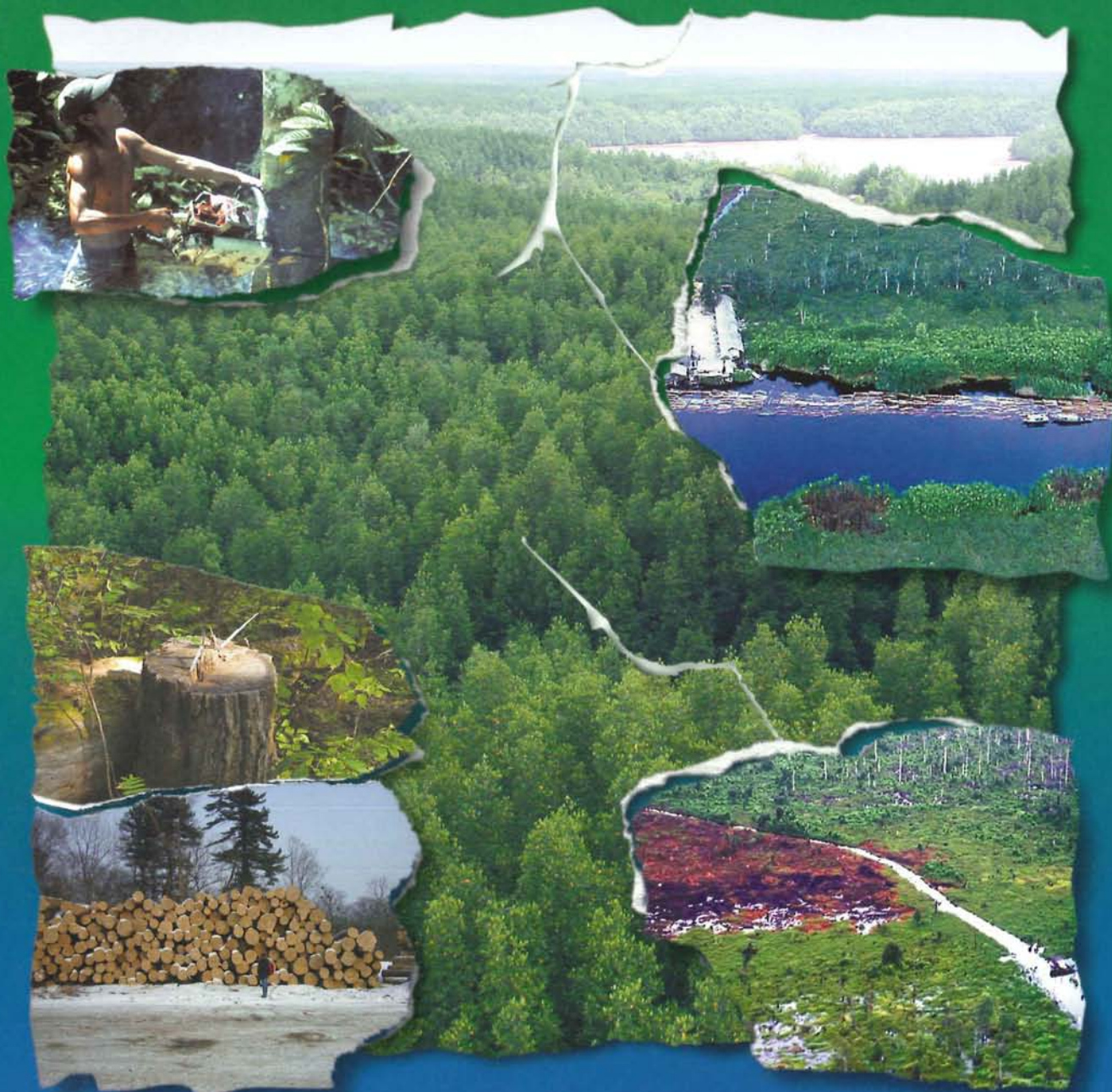
発行：環境省地球環境局環境保全対策課
〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2
Tel: 03-3581-3351 (内線 6747) Fax: 03-3581-3348
E-mail: MOE-JAPAN@env.go.jp
URL: <http://www.env.go.jp>

製作：財団法人地球・人間環境フォーラム
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16 成田ビル 3 階
Tel: 03-3813-9735 Fax: 03-3813-9737
E-mail: contact@gef.or.jp
URL: <http://www.gef.or.jp>

世界の森林を 守るために



違法に伐採された木材を使用していませんか？





1 世界の森林の現状

世界の森林面積は約39.5億ヘクタールで、全陸地面積の約30.2%を占めています。しかしながら、世界の森林は減少を続けており、毎年7,317千ヘクタールが減少しています(2000年から2005年までの平均)。

特に、南アメリカ、アフリカ、東南アジアなどの熱帯の森林を中心に、減少面積が大きくなっています。一方、中国を中心とした温帯林については、増加をしている国も見られ、森林面積の増加と減少には、地域的な偏りが見られます。

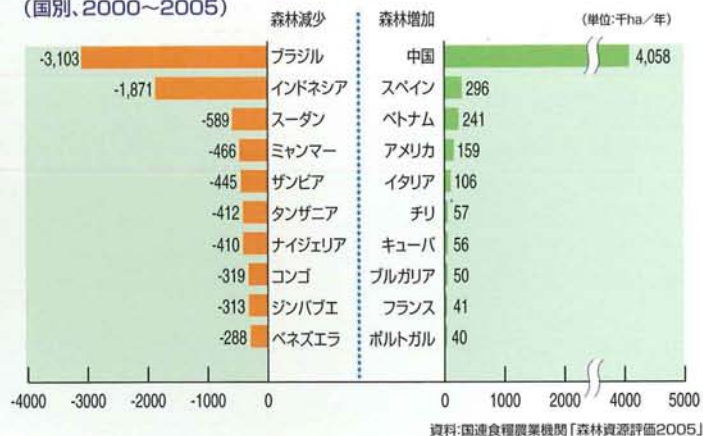
森林減少の大きな国は、ブラジル、インドネシアが突出しています。両国において豊かな熱帯林が、急速に失われつつあることが分かります。このほか、スーダン、ミャンマーなどが続いています。

一方、森林増加の大きい国では、中国一カ国が抜き出しています。中国は砂漠化、洪水、土砂崩れ、渇水の頻発を背景に、急激に緑化を進めています。中国を除けば、森林減少の進行は、なお著しいものとなっていることが分かります。

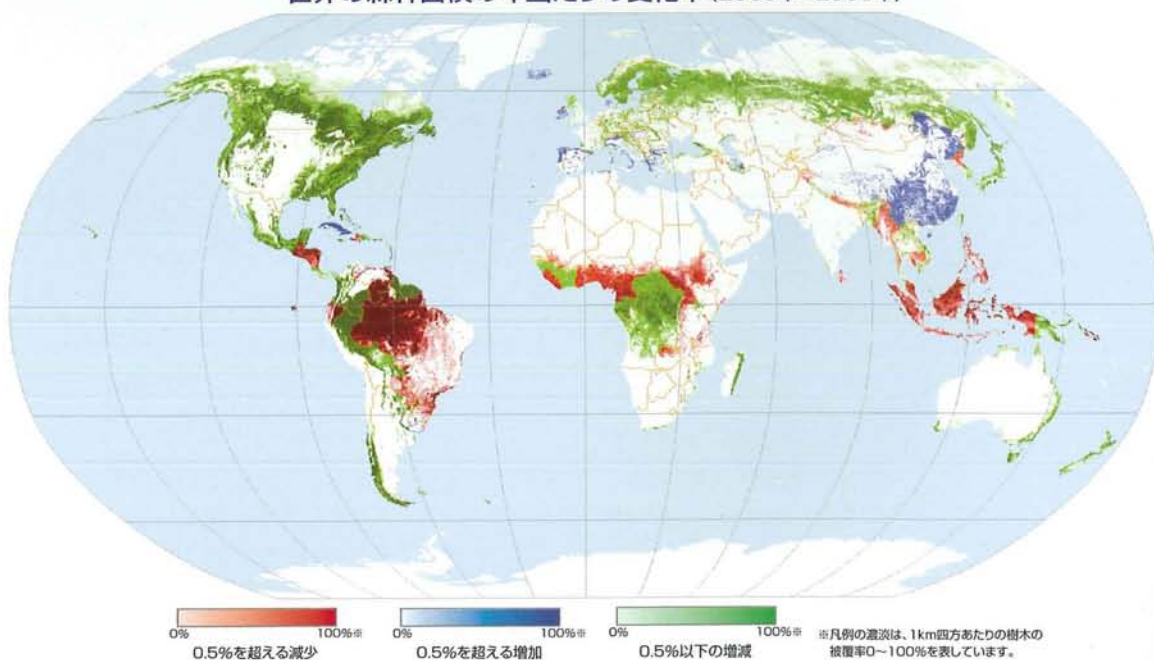
世界の森林面積の年平均の増減
(地域別、2000～2005)



森林面積の変化の大きな国10ヶ国
(国別、2000～2005)



世界の森林面積の年当たりの変化率(2000年～2005年)



試作版: 国土地理院、千葉大学環境リモートセンシング研究センター、ISCGM事務局

2 森林の持つ大切な役割

1 気候変動の緩和

樹木は光合成によって二酸化炭素を吸収し、炭素を樹体内に蓄積しています。さらに、森林には、樹体内のほか土壌中にも、大量の炭素が貯留されています。

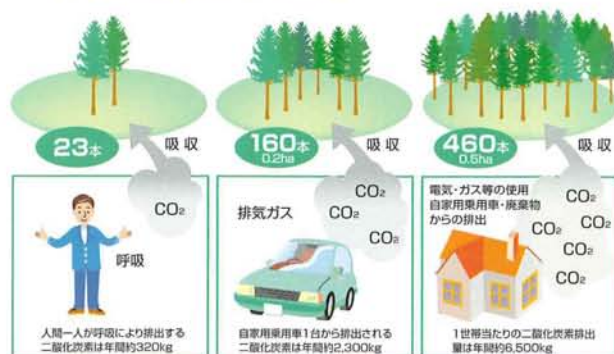
2007年に公表された気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第4次評価報告書によると、世界の温室効果ガス排出量の約20%は、森林が農地など他の用途に転用されたことによるものとされています。

地球が温暖化すると、海水面が上昇することにより、世界の沿岸地域が水没し、自然災害の頻発、伝染病の蔓延など、著しい被害が発生すると言われています。

1. 森林を造成し、炭素の吸収を増加させること
2. 森林減少・劣化を抑制し、炭素の排出を抑制すること

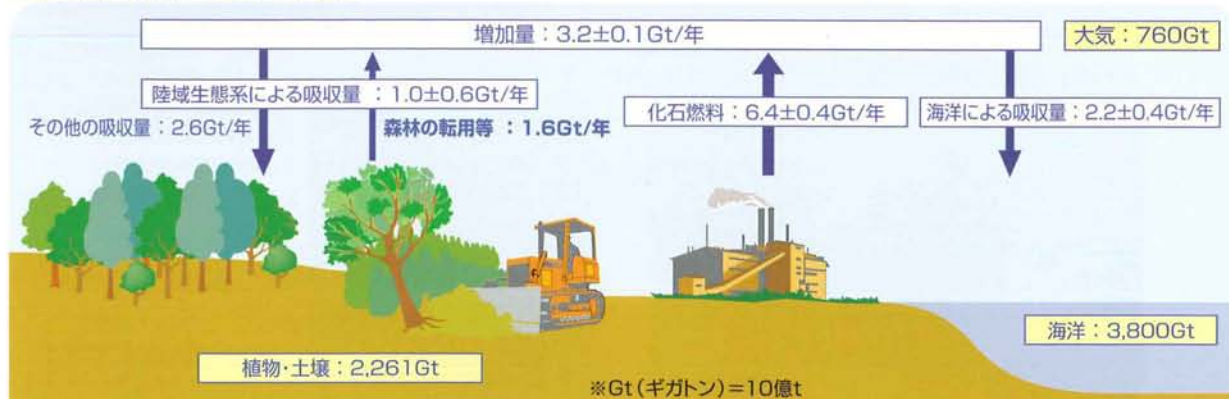
両者は気候変動の影響を緩和する重要な役割を果たすのです。

スギの二酸化炭素吸収量



資料: 岐阜県収権予想表に基づく試算

温室効果ガスの吸収・排出量



資料: 「IPCC第4次評価報告書」より作成

2 生物多様性の保全

森林生態系には、高木や低木、下草など多くの植物が生育しています。さらに、その植物の実を餌としたり、木の幹や土の中などをすみ処にしている動物や昆虫が多く生息しています。このように、森林は生物多様性に富んだ貴重な空間なのです。

森林の伐採や植生の断片化などにより、こうした生物多様性は大きな影響を受けることになります。

例えば、断片化した森に生息する霊長類のテナガザルは、行動圏が限定され、近隣の森林に生息する他集団との交流がほとんど無いことが分かっています。このことは繁殖の機会を失い、個体数の減少につながることを意味しています。また、ミツバチのように植物の花の蜜を餌として花粉を運ぶ昆虫は、森林伐採によって生息数・種類が大きく影響を受け、一度減少すると長期にわたって回復しません。さらに、キツツキの個体密度や多様性は老齢木や枯損立木の密度に大きく影響を受けることも明らかにされています。

このように、森林減少は生物多様性の損失にもつながっているのです。





3 森林減少と違法伐採

森林減少の原因

プランテーションの開発等農地への転用



バイオ燃料の需要増加とも相まって、森林を伐採して、パームオイルのプランテーションなどの大規模な農地への転用が増加しています。

非伝統的な焼畑農業の増加



焼畑農業は、森林を焼き払い、短期間農地として利用した後、自然の回復力で森林に戻ることを繰り返す伝統的な農業の方法です。

近年、人口の増加などを背景に、森林が回復しないうちに再び同じ場所を農地として利用し、土地を劣化させる非伝統的な焼畑が行われています。

燃料用木材の過剰な採取



世界の木材需要の約半分は燃料としての利用です。特に開発途上国において、生活のために使う燃料を得るため、森林が伐採され、人口の増加などのために森林が回復せず、減少しています。

森林火災



焼畑農業、農地開発のための火入れなどの火の不始末や落雷などが原因となり、森林火災が発生し、森林が焼失しています。泥炭や永久凍土がむき出しになることにより、土壌から炭素が排出することも問題となっています。

コラム：森林減少による地域への影響

① 土壌浸食防止・水源涵養機能の劣化

森林を構成する樹木の地下には、樹体を支えるため、根が土壌をしっかりと掴んでいます。

また、根が掴む土壌には、樹木からの落葉、落枝など有機物が堆積しており、それらが昆虫や微生物などにより、分解されています。この昆虫などの働きにより、森林内の土壌は、まるでスポンジのように隙間が沢山空いています。

こうした根や土壌の働きによって得られる、土砂の流出・崩壊を防止する役割、水質保全、洪水・渇水を防止する役割が、森林減少により劣化してしまうことは言うまでもありません。



違法伐採問題

森林を保全するためには、持続可能な森林経営が不可欠ですが、その阻害要因として違法伐採問題が

指摘されています。また、違法伐採された木材の多くは、丸太または木材製品となって外国へ輸出されています。

違法伐採とは？：それぞれの国の法律に反して行われる伐採

例) ・森林計画等に定められた伐採量、指定樹種・径級、伐採方法等を守らない伐採
・所有権、伐採権がない森林を伐採するいわゆる盗伐

・保護地域等を定めた法令を守らない伐採 等
このほか、先住民等の伝統的権利、伐採労働者の安全、税務上の観点からの問題点が指摘される場合もあります。

違法伐採の割合

・英国とインドネシアとの共同研究(1999年):インドネシアでの伐採の50%が違法

・環境NGOの調査(2000年):ロシアでの伐採の20%が違法

違法伐採の影響

・木材生産国における持続可能な森林経営を阻害し、森林減少・劣化をもたらす
・正当なコストを支払っていない違法伐採木材・木材製品が国際市場で不当に安価で流通することにより、輸入国の持

続可能な森林経営を阻害する 等
(全米林産物製紙協会(AF&PA, 2004年)は、違法伐採された木材・木材製品は世界の木材流通価格を7-16%も押し下げていると報告しています。)

違法伐採と森林減少との関係

インフラ開発や商業伐採などにより、森林に対する住民等のアクセスが増加することにより、違法伐採が誘発されます。違法伐採によって劣化した森林は、生態学的な健全性や経済的価値が低下し、農地転用、森林火災等により、減少する危険にさらされることになります。



注) 一方、持続可能な森林経営が行われる場合には、伐採許可を得た者が森林の回復(更新)に責任を持つため、森林が減少する可能性が著しく低下します。

(森林が地域にもたらす公益的機能)

②地域文化・住民生活の破壊

森林は、地域の住民に、薪、木の実、樹液、ツタ、葉草、きのこ、動物などを提供し、水源や土壌を保全するという大きな役割を果たしています。世界の多くの人々、とりわけ先住民にとって、森林は食料貯蔵庫であり、生活の場として欠かさないものです。さらに森林は地域の文化や宗教も育んできました。こうした森林の伝統的な利用に関する慣習的な権利は、ときに無視されてしまうこともあります。森林の破壊や、大規模な植林事業により、地域住民の生活が破壊されたり、変貌を迫られたりすることを忘れてはなりません。





4 私たちにできること

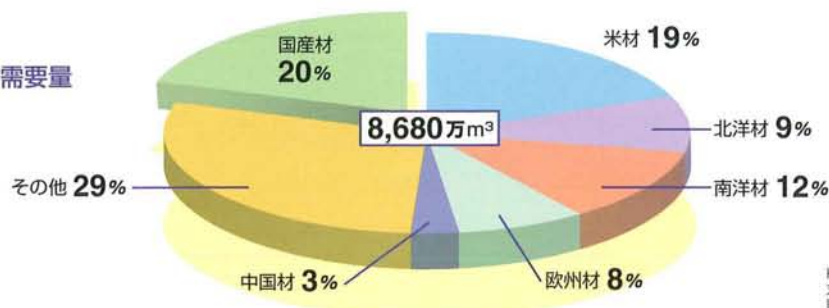
私たちは日常生活の中で、住宅、紙、家具など様々な形で木材を利用しています。それらの木材の多くは、世界中の森林で生産されており、我が国は大量の木材を世界中から輸入しています。

2006年には約7千万 m^3 （丸太換算、財務省「貿易統計」）、我が国の需要の約8割の木材が輸入されました。

このため、日本で生活する私たちは、世界の森林に対し、木材の消費者としての責任を負っています。

違法伐採は、主に木材・木材製品の輸出を目的としていますので、私たちは消費者として、生産国における違法伐採、ひいては森林減少を抑制するためにどのようなことができるでしょうか。

日本の木材需要量



HS44類（紙、家具を含まない）
丸太換算値
財務省「貿易統計」2006

グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号））

政府は、平成13年4月より、国等の公的機関が率先して、環境への負荷が出来るだけ少ないものを選んで購入することを定めたグリーン購入法を施行していますが、平成18年4月から、違法伐採対策として、木材・木材製品については、「合法性」、「持続可能性」が証明されたものを購入しなければならない措置を新たに導入しました。

木材・木材製品の「合法性」、「持続可能性」の確認に際しては、林野庁が作成した「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」に準拠することとされており、以下の3つの方法を提示しています。

(1) 森林認証を活用する方法

森林認証（注1）（PEFC、FSC、SGEC（注2）等）の認証マークにより証明を確認する方法。

（注1）森林が適切に管理されていることを第三者機関が認証し、当該森林から産出された木材を区分することにより、消費者が選択的にこれら木材を購入することができるようにする民間主体の制度。

（注2）PEFC: Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes（PEFC森林認証プログラム）

FSC: Forest Stewardship Council（森林管理協議会）

SGEC: Sustainable Green Ecosystem Council

（「緑の循環」認証会議）



PEFC森林認証プログラム



森林管理協議会



「緑の循環」認証会議

対象品目

- ① 紙類（例：フォーム用紙、印刷用紙等）
- ② 文具類（例：事務用封筒、ノート等）
- ③ オフィス家具等（例：いす、机、棚等）
- ④ ベッドフレーム
- ⑤ 公共工事資材（例：製材、集成材、合板、単板積層材等）

(2) 業界団体の認定を受けた事業者が証明する方法

木材にまつわる各業界団体が自主的な行動規範を作成した上で、個別の事業者を認定し、認定を受けた事業者が「合法性等証明書」（注3）を次の段階の業者に渡すことにより、証明の連鎖を形成するもの。

（注3）合法性等証明書の作成については、既存の伝票等を活用していただくこともできます。



(3) 事業者独自の取組により証明する方法

個別の事業者が独自に伐採から入荷に至るまでの流通経路等を把握し、証明する方法（注4）。

（注4）この方法には多様な証明方法が想定されますが、（2）の方法と同程度の信頼性が確保されるよう取り組んでいただく必要があります。

グリーン購入法では、地方公共団体等の公的機関、民間事業者、国民に対してもグリーン購入に努めることを求めている。国等以外にもグリーン購入の取組が広がることが期待されています。

一方、環境NGOや業界団体などでも、木材調達に際し、合法性・持続可能性を確認する以下のような取組を進めています。

フェアウッド・キャンペーン

(<http://www.fairwood.jp/>)

「フェアウッド・キャンペーン」は、(財)地球・人間環境フォーラム、国際環境 NGO FoE Japan および(財)地球環境戦略機関が、2003年より共同で実施しているキャンペーンです。

世界に残された貴重な森林生態系を保全し、持続可能な森林経営を支援するため、社会全体での取り組みを進め、とりわけ木材、紙の購入者、企業に対して以下の行動を呼びかけています。

フェアウッドとは？

環境に配慮し社会的に公正な木材です。

例えば…

- 最低限、合法的な木材
- 持続可能な森林経営を目指している木材
- 信頼できる第三者機関の認証を受けた木材
- できるだけ近くの森林から出た木材



1 木材や紙のグリーン調達を推進すること

2 そのために、木材や紙のサプライチェーン・マネジメントを行い、持続可能な森林経営が行われるよう購入者として要望すること

キャンペーンでは主に以下の活動を行っています。

- 世界の森林についての情報収集、調査・分析、情報発信
- フェアウッド調達のためのツールやガイドブックの作成と普及
- セミナーや勉強会、シンポジウムの開催
- フェアウッド調達方針策定・実施の支援

Fair Wood

日本製紙連合会の木材調達に対する考え方 ー違法伐採木材についてー

(<http://www.jpa.gr.jp/env/proc/illegal-logging/index.html>)

日本製紙連合会は、我が国の紙・板紙・パルプ製造業の健全な発展を図ることを目的として、主要紙パルプ会社によって構成されている製紙業界の事業者団体です。

連合会では、違法伐採が、森林のもつ木材の供給、生態系の維持、

地球温暖化の防止等の重要な機能の持続的発揮を損なうことのないよう、「違法伐採問題に対する日本製紙連合会の行動指針」を策定し、国際的森林・製紙産業と連携して、違法伐採および違法材の取引対策を進めています。

違法に伐採された木材は使用しない！

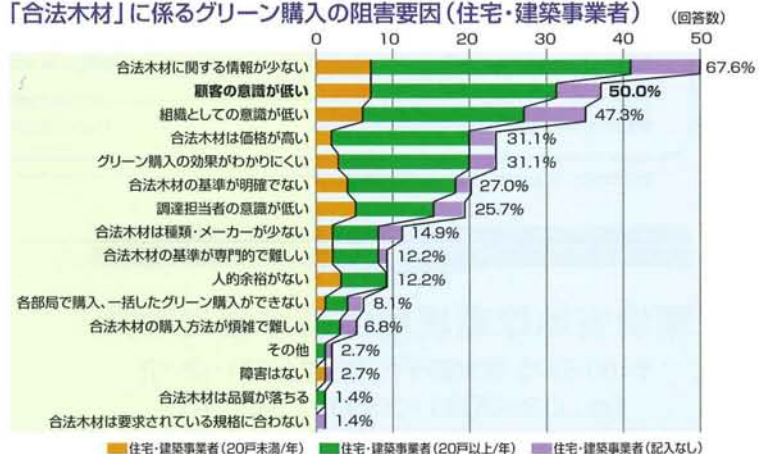
一般に、製紙業界に比べると、企業の規模の小さい住宅・建築業界の取組が遅れています。環境省が2007年に実施したアンケートでは、回答のあった住宅・建築事業者の50%が、木材のグリーン購入に取り組むための阻害要因として、「顧客の違法伐採問題に対する意識が低い」と回答しています。

違法伐採総合対策推進協議会では、合法性を確認できた木材を供給する事業者や製品の情報をウェブサイトに掲載しています。

合法木材ナビ <http://www.goho-wood.jp/>

皆さんも、消費者の視点で、ご自身で利用する木材が、違法伐採されたものでないことを確認するよう心がけていただきたいと思います。

「合法木材」に係るグリーン購入の阻害要因 (住宅・建築事業者)





森林保全対策年表

1983	国際熱帯木材協定 (ITTA) が作成された。
1986	国際熱帯木材機関 (ITTO) を横浜に招致。
1992	地球サミット: 森林原則声明を採択した。
1995	モントリオール・プロセス: 持続可能な森林経営を評価するための基準・指標を設定した。
1995～1997	森林に関する政府間パネル (IPF): IPF 行動提案を採択した。
1997	ITTA 1994 年協定発効: 2000 年までに、国際貿易で取引される熱帯木材はすべて持続可能な経営が行われている森林から生産されたものとする「2000 年目標」が盛り込まれる。
1997～2000	森林に関する政府間フォーラム (IFF): IFF 行動提案を採択した。
1998	バーミンガム・サミット: G8 森林行動プログラムを策定した。
2000	九州・沖縄サミット: 「輸出及び調達に関する慣行を含め、違法伐採に対処する最善の方法について検討」する旨のコミュニケを採択した。
2001～	国連森林フォーラム (UNFF): IPF、IFF 行動提案の実施促進を検討。2015 年までの 4 つの世界的目標の達成及び持続可能な森林経営の推進のための方策等を盛り込んだ「全てのタイプの森林に関する法的拘束力を有さない文書: NLBI」を採択 (2007)。
2002～	アジア森林パートナーシップ (AFP): 日本とインドネシアが中心となって設立し、違法伐採対策、森林火災予防、荒廃地の復旧などの地域協力を推進。
2005	グレンイーグルズ・サミット: 違法伐採問題への各国の効果的対策の推進について盛り込まれた「グレンイーグルズ行動計画」を採択した。我が国は、「日本政府の気候変動イニシアティブ」を発表し、政府によるグリーン購入の導入など我が国の違法伐採対策への取組を表明した。
2008	北海道洞爺湖サミット: 「森林減少・劣化に由来する排出の削減 (REDD)」のための行動を奨励し、98 年以降の G8 の違法伐採対策への取組をとりまとめ、今後取り組むべき課題を検討した G8 森林専門家違法伐採報告書が歓迎された。

森林関連リンク集

国連森林フォーラム
<http://www.un.org/esa/forests/>

国連食糧農業機関
<http://www.fao.org/>

アジア森林パートナーシップ
http://www.asiaforests.org/files/_ref/home/index.htm

林野庁
<http://www.rinya.maff.go.jp/index.html>

合法木材ナビ
<http://www.goho-wood.jp/>

国際熱帯木材機関
<http://www.itto.or.jp/live/index.jsp>

国連環境計画
<http://www.unep.org/>

グリーン購入法ネット
<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/index.html>

外務省
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

フェアウッド・キャンペーン
<http://www.fairwood.jp/>

表紙写真協力: 左上より時計回りに 3 点: ©Telapak, 2 点: ©FoE Japan

お問い合わせ

環境省地球環境局環境保全対策課

〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

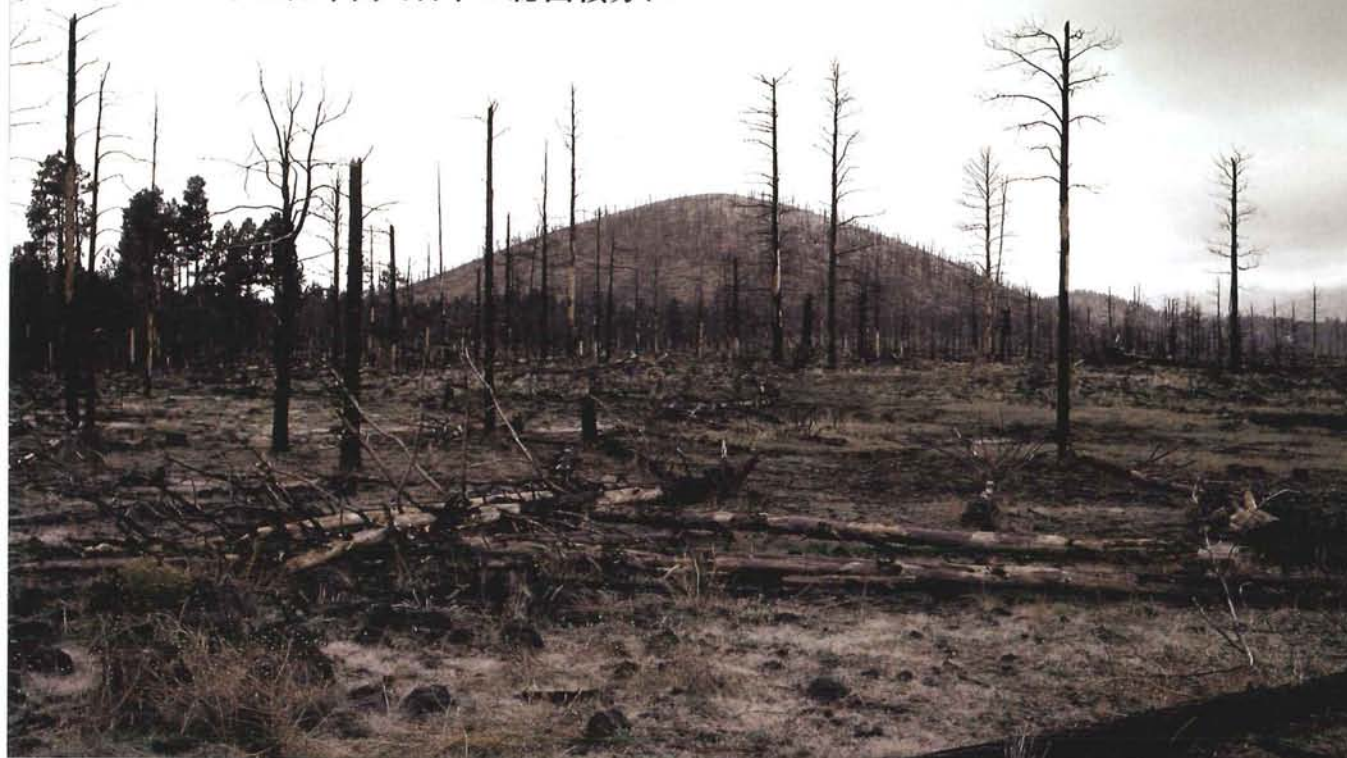
Tel: 03-3581-3351 (内線 6747)

<http://www.env.go.jp/>



世界の森林は刻々と減少しています。

そのスピードは、5年間で日本の総面積分に——



私たちにも出来ることがあります。

「違法伐採された木材」製品を買わない、という選択。

世界規模で刻々と森林が失われています。

その原因のひとつが海外で行われている違法で無秩序な伐採です。

そしてこれらの木材は日本に輸入され、

私たちの周りに潜んでいるかもしれないのです。

緑の地球を救うために、まず「違法に伐採された木材」があることを知ってください。

そして木材製品を購入するときには、合法木材を使用しているかを確認してください。



上記の森林認証※マークのついた木材・木材製品は合法性が証明されています。

※ 森林が適切に管理されていることを第三者機関が認証し、当該森林から産出された木材を区別して流通させることにより、消費者が意識的に合法木材を選び購入できるようにする民間主体の制度。

違法伐採とは？

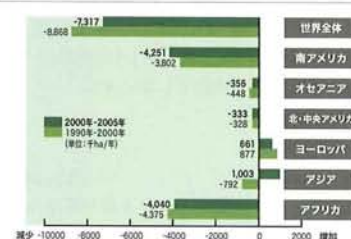
違法伐採とは一般的に、それぞれの国・地域の法令に違反して森林の伐採を行うことです。典型的なものは、無許可で伐採を行う盗伐ですが、許可条件に違反して行う場合もこれに含まれます。違法伐採された木材が流通することで木材価格が下がり、持続可能な森林経営を圧迫するとの指摘もあり、この問題は、環境・経済の両面に多大な影響を及ぼしています。

違法伐採の割合

日本との木材貿易の関係上重要な国であるインドネシアでは、森林伐採における違法性の割合が50%を超えているとの報告があります。※1 またロシアでも20%が違法伐採との指摘があります。※2

※1 英国とインドネシアとの共同研究(1999年) ※2 環境NGOの調査(2000年)

世界の森林面積の年平均の増減
(地域別 2000年～2005年)



国際社会をはじめ、日本政府、NGOや民間企業などは、
違法伐採に対する様々な取り組みを行っています。



日本は木材の大量消費国であり、国内需要の約80%が海外から輸入されています。
そのなかには違法伐採された木材があり、知らない間に私たちの身近にあるかもしれないのです。
では、違法伐採や森林の減少を抑制するために、どのような取り組みがなされているのでしょうか。

🌱 日本政府の取り組み

2001年4月から、「グリーン購入法」を施行しています。同法は、国や独立行政法人、地方公共団体及び地方独立行政法人などの公的機関が、率先して環境への負荷がより少ないものを選んで購入することを定めた法律です。私たち消費者にも、できる限り環境に配慮したものを選ぶ努力を求めています。また2006年4月からは、違法伐採への対策として、木材・木材製品は「合法性」、「持続可能性」が証明されたものを購入しなければならない、という措置を新たに導入しました。

対象品目

・紙類(例:フォーム用紙、印刷用紙など)・文具類(例:事務用封筒、ノートなど)・オフィス家具など(例:椅子、机など)
・ベッドフレーム・公共工事資材(製材、集成材、合板、単板積層材など)

🌱 業界団体・民間企業の取り組み

森林・林業・木材関係団体も、違法伐採に反対する態度を表明するとともに、木材の合法性を証明する仕組みを整えています。また、民間企業でも独自の木材調達方針を発表し、違法伐採の対策を積極的に進める動きが出てきました。このような企業を私たち消費者が支援することで、緑の地球を守ることができるのです。

企業の取り組み例

・住友林業グループの場合

「木」に関するリーディングカンパニーとして、2005年に独自の「木材調達基準」を制定、2007年に「木材調達理念・方針」を公表、社員自らが海外仕入れ先1社ずつ、取扱っている木材のトレーサビリティや合法性を確認する作業を進め、違法伐採木材の取扱い防止に努めています。

・積水ハウス株式会社の場合

国際環境NGOの協力のもと、木材調達ガイドラインを制定しました。木材の合法性に加え、自然生態系や地元住民の暮らしに与える影響まで考慮した多面的な10の指針で調達木材を評価します。これからも調達レベルを向上させ、持続可能な社会の構築に寄与していきます。

🌱 環境NGOの取り組み

FairWood

フェアウッド・キャンペーン
<http://www.fairwood.jp/>

(財)地球・人間環境フォーラム、国際環境NGO FoE Japan 及び(財)地球環境戦略機関が共同で、2003年より実施しているキャンペーンです。環境に配慮し社会的に公正な木材(フェアウッド)の利用を、消費者や企業などに呼びかける活動をしています。

キャンペーンでの主な活動

- 世界の森林についての情報収集、調査・分析、情報発信
- フェアウッドを優先的に選択してもらうためのガイドブックなどの作成と普及
- セミナーや勉強会、シンポジウムの開催
- フェアウッド調達方針策定・実施の支援

違法伐採総合対策推進協議会では、合法性を確認できた木材を供給する企業や製品の情報をwebサイトに掲載しています。ぜひアクセスしてみてください。

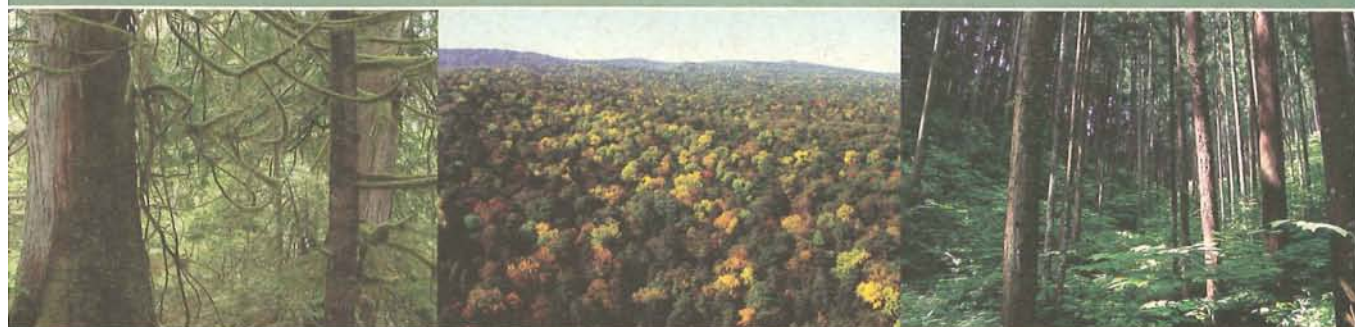
合法木材ナビ <http://www.goho-wood.jp/>

R70
お買い得品70%以上を再生材で製造しています。

FSC ミックス品
FSC認証製品及び管理された木材のみの使用を認めています。
www.fsc.org Cert no. S-COC-1808
© 1996 Forest Stewardship Council

フェアウッド パンフレット

FairWood
フェアウッド・キャンペーン



FAIRWOOD CAMPAIGN

森林を破壊しない、選択
フェアウッド・キャンペーン

木材・紙のグリーン調達を進めよう

フェアウッド・キャンペーンとは？

環境に配慮し、社会的に公正な木材＝「フェアウッド」の利用を推進することで、生産国での持続可能な森林経営に向けた取り組みを支援します。

フェアウッド・キャンペーンでは、世界と日本の森林環境を維持・改善し、生産現場における持続可能な森林経営を支援するため、世界有数の木材・紙消費国である日本で、購入者として責任ある行動をとることの重要性を訴えています。

具体的には、木材や紙の大口購入者である行政や企業に対して、木材・紙のグリーン調達を推進することを呼びかけ、一般消費者に向けて、選択的な消費行動を促すための情報発信・啓発を行っています。

■フェアウッド・キャンペーンの主な活動

- 1 世界の森林についての情報収集・発信、調査・分析
- 2 木材・紙のグリーン調達のための政策提言やツール・ガイドブックの開発
- 3 木材・紙調達方針に関するセミナーやシンポジウム、ワーキング・グループの開催



カナダの温帯雨林(左)
インドネシアの熱帯林(中)
日本のスギ林(右)
極東ロシアの針広混交林(下)



森林を破壊しない、選択
フェアウッド・キャンペーン
～木材・紙のグリーン調達を進めよう

持続可能な森林経営を支援

日本の森林

- 人工林の環境向上
- 炭素吸収・固定源の確保
- 水源涵養・水害等の防止
- 山村の活性化 など



世界の森林

- 森林減少・劣化の抑制
- 生物多様性の保全
- 違法伐採の排除
- 先住民の権利の確保 など



購入者のサプライチェーンを改善

行政・企業が木材・紙のグリーン購入を推進

フェアウッド・キャンペーン

TOPICS

フェアウッドとは？ ～持続可能な森林経営と森林認証

フェアウッドとは環境に配慮し、社会的に公正な木材です。具体的には以下のようなものが考えられます。

- 最低限、合法的木材
- 持続可能な森林経営を目指している木材
- 信頼できる第三者機関により認証を受けた木材
- できるだけ近くの森林から出た木材

持続可能な森林経営とは、環境、社会、経済の3面から見て適切な森林管理を指します。現在、世界では持続可能な森林経営を実現するツールと

して森林認証制度が広く普及しています。国際的な制度としては、FSC (Forest Stewardship Council、森林管理協議会) やPEFC (Programme for the Endorsement of Forest Certification) などがあります。その他にもカナダのCSA (Canadian Standards Association、カナダ規格協会) やアメリカのSFI (Sustainable Forestry Initiative) など、国レベルでの制度があり、国内でも2003年に設立された日本独自のSGEC (緑の循環認証会議) があります。これらの森林認証制度の間には、考え方や水準に大きな違いがあるので、目的に応じて使い分けることが大切です。

購入者の責任と可能性 ～私たちにできること

持続可能な森林経営を支えるのは買い手

日本は世界有数の木材・紙の消費国です。購入者として、生産現場における持続可能な森林経営を支援できる可能性と責任があります。特に大口の購入者である行政・企業の調達には大きな影響力があります。

木材の生産現場では、たとえ環境や社会的なコストをしっかりと森林経営に組み込んだ林業を行いたいという意欲があっても、それを買ってくれる買い手がいなければ、実現できません。また、違法伐採などの問題には目をつぶり、安価な木材を買い続ければ、違法伐採を助長することになります。買い手が「少しでも安い紙や木材を」と希望し続ける限り、残念ながら持続可能な森林経営は育たないのです。

責任ある調達に向け行動を始めた欧米

日本と並び大きな木材需要を持つ欧米では、生産国を支援する具体的な取り組みが盛んになっています。

たとえば、イギリスでは、公共調達において合法性が確認された木材を義務付け、認証木材を優遇する政府木材調達方針を2000年から実施しています。300社が加盟するイギリス木材貿易連盟（TTF）は、「責任ある調達方針」プログラムを作り、現在70社が署名をしています。欧州最大のDIY（日曜大工用品店）であるB&Qなどの木材流通企業は、熱帯林トラスト（TFT=Tropical Forest Trust）というNPOと協働してFSC等の認証材の取扱量を増やしています。

また、アメリカでは、異業種のトップ企業が集まった「ペーパー・ワーキンググループ」が、メタフォー（Metafore）というNPOの協力の下で原生林保全のために紙原料について共通の評価ツールの開発に取り組んでいます。

そして、日本でも

日本でも、いくつかの需要企業が調達方針を導入し始めています。また、（社）全国木材組合連合会は「森林の違法伐採に関する声明」を発表し、傘下の木材業界に違法・不法材を取り扱わないように勧告しています。

木材・紙のグリーン調達に取り組むことは、企業にとってサプライチェーンの透明化と自らのCSR（企業の社会的な責任）経営の強化につながります。

木材・紙の大口ユーザーである日本には、減少・劣化を続ける世界の森林を守る責任も力もあるはず。世界の持続可能な森林経営を支援する牽引役として日本への期待が高まっています。



皆伐されたインドネシアの熱帯林(上) [写真提供=熱帯林行動ネットワーク]
シベリアのタイガ(下)

森林を破壊しない、選択
フェアウッド・キャンペーン
～木材・紙のグリーン調達を進めよう

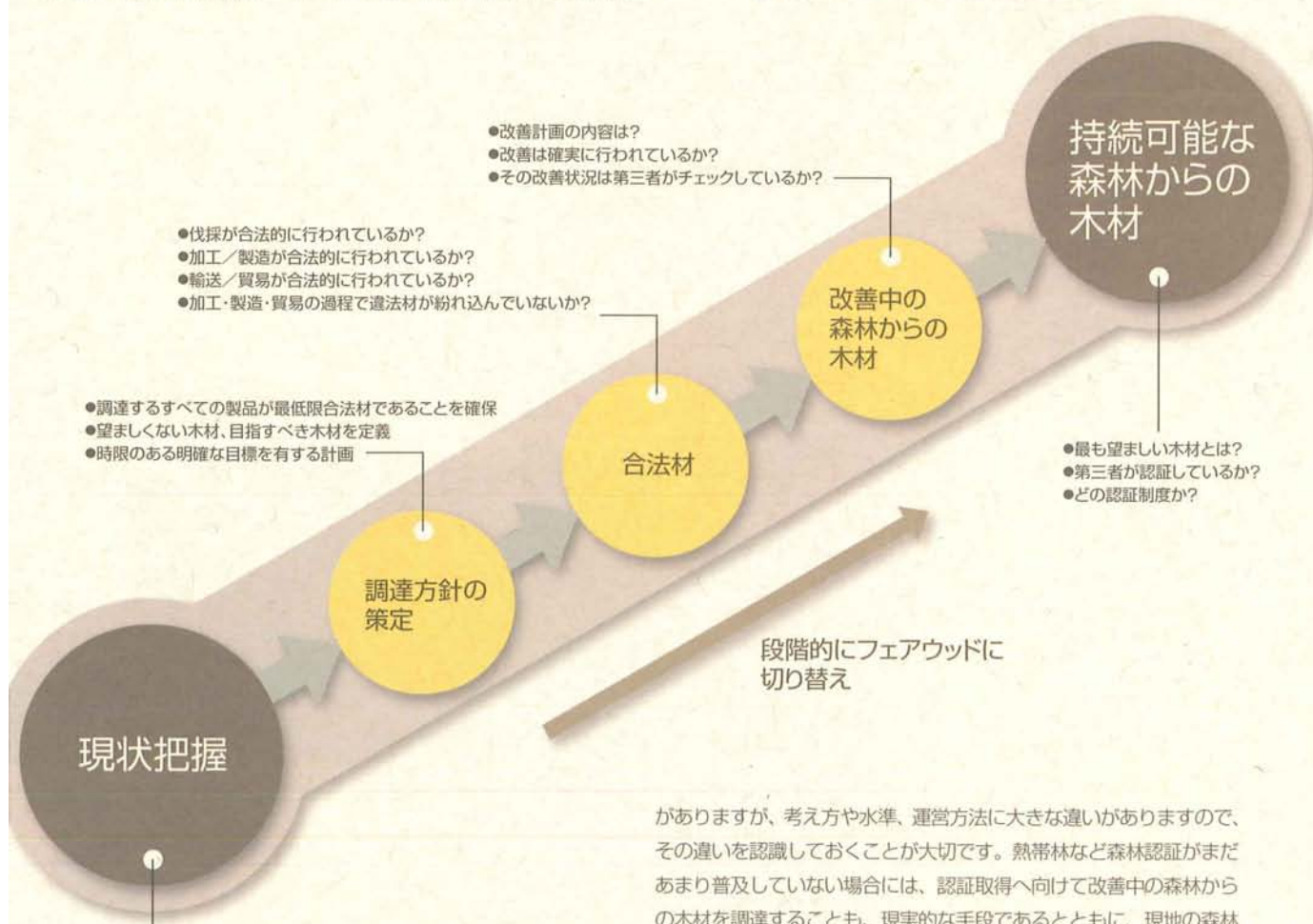
■段階的なプロセスでフェアウッドに切り替える

まず初めに現状を把握するところから始めましょう。自らが調達している木材や紙をすべて洗い出し、納入業者やその先のサプライチェーンをさかのぼって調べることで、原料となっている木材の樹種や原産地、加工地を把握します。

現状を把握したら、望ましくない原料を使っている、またはその可能性のある製品を切り替えていくための調達方針を策定します。調達する製品は最低限合法材であると自信を持って言えるようにするとともに、持続可能なものへすみやかに切り替えるため、時限を設けた目標設定をします。高すぎて実行不可能な目標ではいけませんが、低すぎる目標では社会からの評価を得ることはできないでしょう。

持続可能な森林からの木材を証明するためには、第三者が確認をする森林認証制度が有効なツールとなります。世界には様々な認証制度

適切に管理された日本の人工林(右)
カナダの天然林(下)



がありますが、考え方や水準、運営方法に大きな違いがありますので、その違いを認識しておくことが大切です。熱帯林など森林認証がまだあまり普及していない場合には、認証取得へ向けて改善中の森林からの木材を調達することも、現実的な手段であるとともに、現地の森林経営者を支援することにもつながります。

調達方針の策定と実施においては、納入業者はもとより、第三者の専門家やNGOとコミュニケーションが不可欠です。進捗状況はすべてオープンにし、ステークホルダーからの協力を得るようにしましょう。

今、世界と日本の森林は～フェアウッド推進が

世界で進む森林減少・劣化

世界では毎年、約1,250万ヘクタール（日本の国土面積のおよそ3分の1）の天然林が減少し続けています（FAO「FRA2000」）。天然林を皆伐して有用樹種だけを植林したものや、伐採しても、統計上「減少」とはみなされない森林劣化にも目を向けなければなりません。WRI（世界資源研究所）によれば、世界の原生林（フロンティアフォレスト）は8000年前と比べて、すでにその8割が失われていると報告されています。

このような森林減少・劣化の原因には、商業伐採、大規模な農地等の開発、森林火災、非伝統的な焼畑、および燃料用木材の過剰な採取などが挙げられます。なかでも、不適切な形での商業伐採や違法伐採は、世界の天然林にとって深刻な脅威となっています。

■8000年前の原生林(上)と現在の原生林(下)



資料：www.globalforestwatch.org

伐採されたまま放棄された日本のスギ林

木材価格の低迷により、伐採後、再植林するための収入が保たれずに放棄される森林が増えている



雪害の被害を受けたスギ林
林業の低迷から、間伐などの手入れがされずに放置され、ひょろひょろになった森林は風や雪の被害を受けやすくなる



